高文連

第10号

山口県高等学校文化連盟

高文連

第 10 号

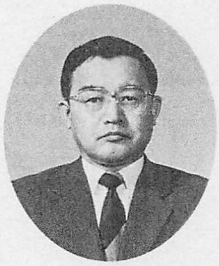
もくじ

あいさつ …… 1
山口県高等学校文化連盟各部門の報告 …… 2
第20回山口県高等学校文化祭の記録
　総合開会式 …… 17
　（音楽関係４部門）
　器楽・管弦楽部門 …… 21
　合唱部門 …… 22
　吹奏楽部門 …… 23
　マーチングバンド・バトントワリング部門 …… 24
　（日本音楽・吟詠剣詩舞部門） …… 26
　（展示関係部門） …… 27
　書道部門 …… 31
　美術・工芸部門 …… 31
　写真部門 …… 32
　囲碁部門 …… 33
　演劇部門 …… 34
　放送部門 …… 35
　将棋部門 …… 37
第22回全国高等学校夫鳥合文化祭の記録 …… 38
　器楽・管弦楽部門 …… 40
　合唱部門 …… 41
　吹奏楽部門 …… 42
　マーチングバンド・バトントワリング部門 …… 44
　日本音楽部門 …… 46
　美術・工芸部門 …… 47
　書道部門 …… 50
　写真部門 …… 51
　囲碁部門 …… 53
　放送部門 …… 54
　将棋部門 …… 55
自主事業 …… 57

参考資料

　第13回全国高等学校文芸コンクール都道府県別応募一覧 …… 64
　（部門別応募状況、入賞作品数一覧、山口県受賞作品一覧） …… 65
　平成10年度山口県高等学校文化連盟＜事業報告・会計決算書＞ …… 67
　平成11年度山口県高等学校文化連盟＜事業計画・会計予算書＞ …… 69
　山口県高等学校文化連盟規約・諸規定（会計、事務局、表彰、旅費支給基準） …… 71
　平成10・11年度山口県高等学校文化連盟役員一覧 …… 76
全国高文連の歌 …… 78

ごあいさつ



山口県高等学校文化連盟
会長　森本　紘史

21世紀に向け本県教育の指針となる「山口県教育ビジョン」がH10年３月に発表されました。「夢と知恵を育む教育の推進」を基本目標に掲げ、目標を達成するための柱の一つに個性豊かな地域文化の創造と継承が掲げられています。

完全学校週５日制の導入を目前にひかえ、文化に対する関心を高め親しむために文化活動の促進を図ること。水準の高い優れた文化にふれあい、感性を育み高めるために芸術鑑賞の機会を充実すること。そして、気軽に参加できる身近な文化活動として、県高等学校総合文化祭を充実することが高等学校の具体的な施策としてあげられています。

一方で、生徒減少期の高校生の芸術文化活動の活性化対策として、できるだけ多くの生徒が芸術文化のすばらしさに接し、活動に参加する機会をつくるため、７地区を輪番として、昨年の岩国を皮切りに、本年度は柳井地区の引き受けで総合開会式を実施しました。

６月19日、サンビームやないを会場に「響け　文化の音色　輝け　みんなの創造」をテーマに、本年度の県高等学校総合文化祭を開幕し、地元柳井市の御支援のもと、柳井高等学校を主管校とする柳井地区高等学校が一体となりつくりあげた総合開会式は、生徒や先生方の献身的な熱意で、道路事情や天候の悪条件を見事に克服し、すばらしく感動的で立派なセレモニーでした。市長さんをはじめ、地元をあげての歓迎と協力体制は、初めての柳井地区開催を成功に導く大きな力になりました。

「空高く　創造の鳥　舞い上がれ　'98鳥取」。８月７日から５日間鳥取県で開催された全国高等学校総合文化祭は、前年にプレ大会を開催するなど周到な準備のもと、生徒の活動を全面に打ち出し、正に高校生の大会として大きな盛り上がりを示しました。生憎の天候もパレードの時間は鳥取市内だけは晴間が見えるといった運も味方して、県をあげての鳥取県の意気込みが、参加した多くの人に感動を与える大会となりました。本県も250名体制に加え、今回から新設された新聞部門に山口高校が参加協力し、指導課長も応援に駆けつけ県を挙げて協力しました。全総文祭の中国地区での成功は本県の生徒にとっても大きな励みになったことでしょう。

年々高文連自主事業に対する希望校が多くなり、活動の理解が深まりつつあることを大変うれしく思います。平成10年度の県高文連の事業が、多くの関係者の御尽力、御支援を得て無事終了しました。衷心より感謝いたします。瑞々しい感性が漲る高校生の文化活動が、発展して行くよう今後とも全力を傾けたいと考えています。

終わりに、この１年間終始温かい御指導を賜りました県教育委員会に深甚なる謝意を表しますと共に、高文連活動に御支援・御協力をいただきました全ての方々に心からお礼を申し上げ、発刊のごあいさつとします。

山口県高等学校文化連盟・各部門の報告

器楽・管弦楽部門

理事長　松永忠雄
（下関南高等学校教諭）

山口県高等学校文化連盟器楽・管弦楽部門では今年度、次のような事業を行ないました。

1．平成10年度第20回山口県高等学校総合文化祭総合開会式において慶祝演奏として合唱部門との合同演奏

・６月19日(金)・サンビームやない
・曲目「大地讃頌」
　「タンホイザー」より大行進曲
・指揮／柳　敏恵（柳井高校）
・参加出演／器楽・管弦楽部門　５校　95名

2．平成10年度第20回山口県高等学校総合文化祭音楽４部門発表会

・６月20日(土)、21日(日)
・サンビームやない
・参加各校によるギター、マンドリン、管弦楽の演奏
・参加出演／７校　287名

3．第22回全国高等学校総合文化祭鳥取大会

・８月11日(火)・鳥取県米子市公会堂
・山口県代表　防府高等学校
・曲目／組曲「惑星」より　火星
　「カルミナブラーナ」より

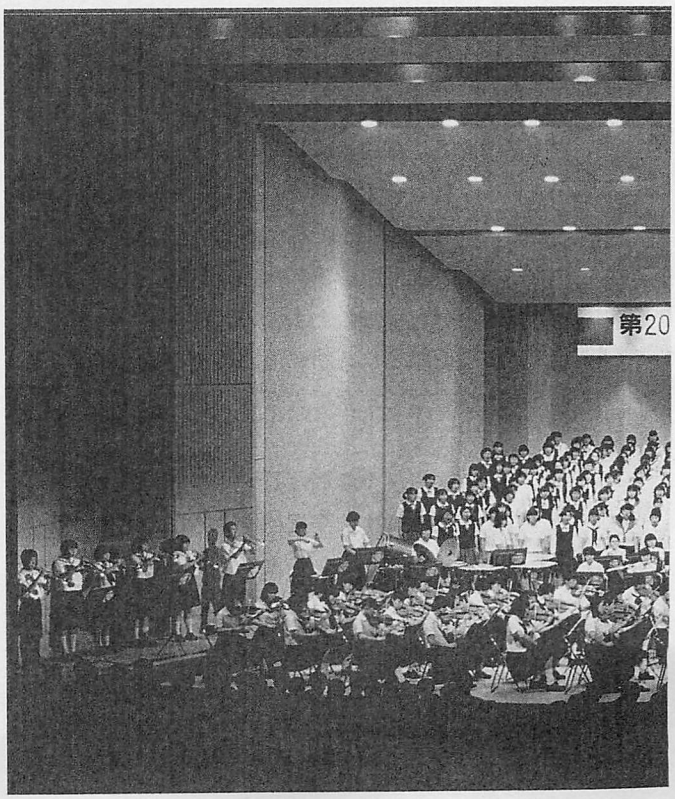
4．経聖10年度山口県高等学校文化連盟器楽・管弦楽部会

・12月18日(金)
・下関南高等学校校長室
・出席者／部会長以下７名
・議題／第18回器楽・管弦楽スプリングコンサート(防府大会)、県総文、全総文、高文連表彰、役員改選などについて

5．第18回山口県高等学校器楽・管弦楽スプリングコンサート

・３月25日(木)　防府アスピラート
・参加出演／７校、各校によるギター・マンドリン、管弦楽などの演奏

※　平成10年度全国学校合奏コンクール
・中国大会　最優秀賞受賞
・全国大会　会長奨励賞受賞
下関南高等学校
（曲目：ボロディン作曲　歌劇「イーゴリ公」より『ダッタン人の踊り』）



合唱部門

理事長　石島栄子
（野田学園高等学校教諭）

山口県高等学校文化連盟、合唱部門に関して行なわれた今年度の行事を報告いたします。

1．5月31日
山口県高等学校合唱講習会
（開幕式典を控えての講習会）
・講師：山崎勝（島根県立矢上高校教諭）
・内容：発声と曲作り
・曲目：大地讃頌　タンホイザー
・場所：山口県教育会館大ホール
・参加者：258名

2．**平成10年度第20回山口県高等学校総合文化祭総合開幕式典において慶祝演奏**
・6月19日(金)
・山口県高校管弦楽団との合同演奏
・曲目：大地讃頌　タンホイザー
（県高校合唱団　317名）

3．**平成10年度第20回山口県高等学校総合文化祭音楽4部門発表会**
・6月20日(土)、21日(日)
・サンビームやない
・合唱部門出演者　計351名

4．**第22回全国高等学校総合文化祭**
・8月9日(日)
・鳥取県境港市民館
・山口県代表　奈古高校合唱部
・曲目：TUROT ESZIK A CIGANY
（ジプシーがチーズを食べる）
「紀の国のこどものうた2」より
・　泣いてくれるな
・　やんまヤッホー

5．**NHK学校音楽コンクール県大会**
8月25日　徳山市文化会館

6．**AJCL（全日本合唱連盟）コンクール**
・県大会（徳山市）8月9日（日）
・中国大会（シンフォニア岩国）
9月26日（土）

7．**高文連合唱部会**
12月9日　野田学園高等学校

◀第20回山口県高等学校総合文化祭
総合開会式（サンビームやない）

吹奏楽部門

理事長　和田道明
（華陵高等学校教諭）

平成10年度山口県高等学校文化連盟吹奏楽部門の活動状況を報告いたします。

1．平成10年度第20回県総文総合開会式

総合開会式は、『響け　文化の音色　輝け　みんなの創造』をテーマに、柳井高等学校主管のもと、６月19日（金）サンビームやない　で盛大に開催されました。

吹奏楽部門は、柳井地区高等学校合同吹奏楽団を編成し、佐々木真一・宮本敬司先生指揮のもとで、式典並びに慶祝演奏に参加しました。

[式　　典]“ファンファーレ”“高文連の歌”
[慶祝演奏]“日本民謡メドレー”
　　“マンボNo.5”

2．県総文音楽４部門発表会・連合音楽会

総合開会式に引き続いて６月20日（土）～21日（日）の２日間、音楽４部門発表会並びに連合音楽会が同じくサンビームやないで開催されました。吹奏楽部門では49校1,534名の多くの学校や生徒達が参加し、素晴しい演奏を披露してくれました。

3．全総文鳥取大会

全総文鳥取大会吹奏楽部門は、８月10日（月）、11日（火）の２日間、米子コンベンションセンターで開催されました。

山口県代表として防府商業高等学校吹奏楽部51名（阿部美雄先生指揮）が初日に出演し、曲目「スパルタクスより３っつのダンス・エピソード」、「ティコ　ティコ」を演奏披露し、華麗なサウンドで会場を魅了しました。

4．高文連吹奏楽部会総会

本年度吹奏楽部会総会を12月11日（金）華陵高等学校で開催いたしました。県下41名の吹奏楽指導担当者が出席し、本年度事業報告や来年度事業計画、全総文「山形大会」への参加推薦等の多くの協議事項に対して意見交換がなされました。

5．高文連吹奏楽部会研修会

部会総会終了後、部会研修会を開催いたしました。

吹奏楽と音楽教育の分野を中心に多くの作・編曲があり、作曲活動の傍ら全国各地における指導者講習会の講師として、また音楽評論家として多彩な活動を展開しておられる作曲家の後藤　洋先生を講師にお招きし、午前中から「吹奏楽指導に役立つアナリーゼ」の講演をしていただき、さらに午後からは楽器を演奏できる教員で組んだディレクターズバンドを指揮しながら、アナリーゼについて指導をしていただきました。

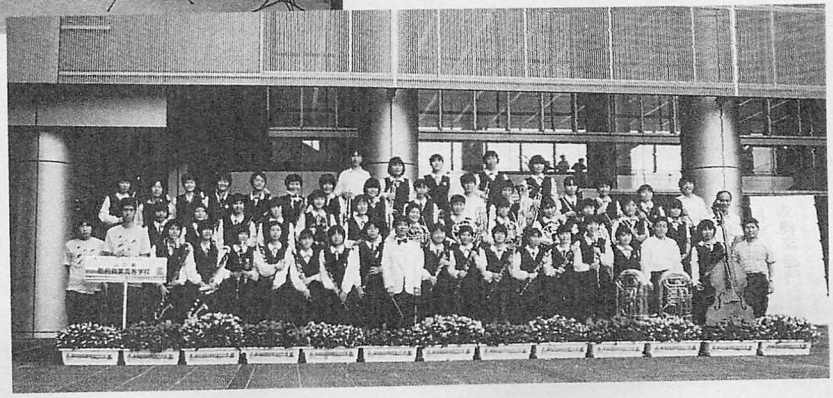
我々は実際に音を出すことで、実践的にアナリーゼを学習することができました。先生には長時間にわたり、幅広くかつきめ細かに、熱心に指導していただきました。

この講演で、曲の分析において幅を広げることができました。今回得たものを元に、平素の活動がより能率的に効果的に活動できるよう心がけたいものだと思いました。

▲音楽４部門発表会

柳井地区合同バンド ▶

◀ 吹奏楽部研修会



全国高総文祭 ▶

マーチングバンド・バトントワリング部門

理事長　花村慈照
（宇部女子高等学校教諭）

平成10年度山口県高文連マーチングバンド・バトントワリング部門の主な活動状況を報告いたします。

１．山口県高等学校総合文化祭総合開会式

総合開会式は、県立柳井高等学校主管のもと、６月19日（金）柳井市の「サンビームやない」で盛大に開催されました。慶祝演奏演技には、山口県鴻城高等学校の演奏のもと三田尻女子高等学校のバトントワリング部の演技で「ホワイトブレス」「ホワイトラブ」の２曲を披露しました。

２．県総文祭音楽４部門発表会・連合音楽会

総合開会式に引き続き６月20日（土）～21日（日）の２日間同会場で開催されました。参加校はマーチングバンドでステージドリルの演奏演技を披露したのは山口県鴻城高等学校・宇部女子高等学校・山口県立佐波高等学校の３校と、バトントワリングの演技には早鞆高等学校・宇部女子高等学校・三田尻女子高等学校の３校の146名の参加があり、すばらしい演奏演技を披露しました。

３．全国高等学校総合文化祭（鳥取大会）

マーチングバンド・バトントワリング部門は、８月７日（金）～９日（日）の３日間、鳥取県で開催されました。パレード部門は鳥取県庁前～鳥取県物産観光センター前までの１．１キロメートルで行なわれ、また部門発表会は鳥取県民体育館で開催されました。各都道府県から、パレード部門に47校。部門発表会には54校の参加があり、山口県からはマーチングバンドに山口県鴻城高等学校が、バトントワリングには本年度も山口県合同チームとして三田尻女子高等学校・宇部女子高等学校・早鞆高等学校の３校が参加し、迫力のある演奏演技で会場から絶賛の拍手を受けました。

４．その他の活動

各校とも平素は地元での諸行事等に参加し、地域社会に貢献しています。

５．高文連マーチングバンド・バトントワリング部総会

本年度は、３月18日（水）宇部女子校で開催しました。11名の指導担当者が出席され、本年度の事業計画の反省と来年度の事業計画、全総文（山形大会）の参加について、また県総文祭慶祝演奏演技の出場校の決定等多くの協議題に活発な意見が出されました。

６．部門の研修について

マーチングバンドは各校独自で研修を実施しています。バトントワリング部は毎年全総文大会に山口県合同チームとして参加するために、三田尻女子高等学校・宇部女子高等学校・早鞆高等学校の３校で合同研修を年５回実施しています。

日本音楽部門

理事長　河村加南子
（徳山高等学校教諭）

平成10年度山口県高文連日本音楽部門の主な活動状況を報告いたします。

1．第20回山口県高等学校総合文化祭総合開会式における音楽４部門発表会

本年度は柳井高校と柳井学園高校の合同演奏で「薫る花」に取り組みました。日本の伝統的音楽の良さが発揮され満足のいく演奏でした。

一般の高校生はこのような機会がなければ日本音楽に触れるチャンスはほとんど無いという現実を考えれば、彼等にとっても貴重な経験であったと思います。

また、この合同演奏を通して、柳井高校と柳井学園高校の交流が深まったことは高文連の活動として大変有意義なことで、今後に活かしていきたいと考えています。

2．第20回県総文祭日本音楽・吟詠剣詩舞部門発表大会

本年度は山口県鴻城高等学校主管のもと、６月21日（日）山口市の山口南総合センターを会場に開催されました。大変残念なことに、昨年から吟詠剣詩舞部門が休部となり、今年はとうとう吟詠の発表を一つも見ることが出来ませんでした。長い間、共に協力して大会を盛り上げていただいていた吟詠部門が一日も早く活動を再開されますよう祈ってやみません。

一方、郷土芸能の部門も合同で発表会を開催してきましたが、早鞆高校の元気で勇壮な平家太鼓に、山口県鴻城高校の大内姫太鼓が加わり一層華やかさを増しました。

さて、箏曲を中心にした日本音楽部門も年々レベルはあがってきているとのことですが、全国レベルとの隔たりはなお大きく、今後取り組んでいくべき重要な課題です。それに加えて、各学校とも生徒数の減少に伴って、部員の確保が焦眉の問題として立ちはだかっています。

今後とも日本音楽の伝統を守り育てていくには、顧問の先生方のご努力におすがりするよりほかありません。

顧問会議の場でお互いの活動状況を交流して世界に誇る日本音楽の伝統を絶やさないよう協力していきましょう。

4．第22回全国高等学校総合文化祭「鳥取大会」

８月８日から８月９日まで米子市公会堂で開催された全国大会には、山口県鴻城高校が出場しました。

全国のレベルの高さを肌で感じたことが今後の活動をさらに大きく飛躍していく原動力になると信じます。

美術・工芸部門

理事長　庄島信基
（宇部高等学校教諭）

1．県高等学校総合文化祭総合開会式慶祝展示

今年の総合開会式は柳井市サンビームやないで行なわれました。白壁の町に隣接し柳井市文化圏の一角を占める近代建築である。展示広場となるロビー、ホワイエが例年に比べて狭い為に作品点数を制限された事は少し心残りである。地元の皆さんに鑑賞してもらうのに環境を整える事も大切と思いました。しかしながら、柳井地区各高校から出された作品はそれぞれが特長を持ったものに仕上がっていました。柳井高校浜崎先生を中心に立派な展示となっていました。

周囲を少しばかり散策しましたが、商店街は人がまばらで駅南に動いている様で寂しく思います。でも、河や白壁の軒並みを歩くには情緒があり、時の止まったような安堵感があります。交通網が整備されてもう少し容量のある美術館が建つといいなと思います。

2．第22回全国高等学校総合文化祭

美術・工芸部門は８月７日～８月11日の５日間、砂丘で有名な鳥取市に全国の代表作品を集めて展示されました。空はどんよりとし、蒸し蒸しする天候の中で汗をふきながら動く大会でした。オープニングパレードでは吹奏楽団やバトントワリングの行進があり、県庁前広場から鳥取駅までの２㎞近い大通りを車の通行止めにしてまで支援した鳥取県の姿勢に吃驚しました。８月７日に部門の開会式が鳥取産業体育館であり、続いて交流会に入ります。展示会場となる県立博物館は県庁近く堀の中に建つ堂々とした建物です。内部もゆったりとし落ち着いた空間の中で鑑賞することができました。山口県は『蓮葉何田田』（河内尚子・岩国）『コンポジション』（秋枝正訓・豊浦）『今、私』（河合郁子・萩）《絵画》『記憶の再会』（松浦友香・萩光塩学院）『ポスター』（浅村久美子・下松）《デザイン》の５点を代表として出品しました。それぞれの作品から作者の熱意が見る人に伝わったと思います。鳥取県は大陸と近く韓国・中国の作品を併せて展示して会場効果を盛り上げていました。色々な面で大会の成功に大きく寄与された鳥取県は素晴しいと思います。

書道部門

理事長　古屋元子
（山口高等学校教諭）

１．県高等学校総合文化祭総合開会式慶祝展示

本年はサンビームやないのホワイエにおいて、開会式当日のみ、他の４部門と共に展示を行ないました。ある先生から、毎年展示を見るのを楽しみにしている、心が和むという感想を聞き、改めて心引き締まる思いがしました。これからも各地区の高校の協力のもと、充実した作品を出品出来る様に努めたいと思います。

２．全国高等学校総合文化祭＜鳥取大会＞

羽衣伝説の残る打吹山のふもと、倉吉博物館が書道部門の会場でした。前庭には、大会イメージソングを書いた共同制作の特大パネルが飾られ、鳥取県の高校生の意気込みが伝わって来ました。又開会式後の展示会場は全国の高校生の熱気が充満。冷房が故障したかと思う程の盛況でした。出品作品には、各県の特長や傾向が窺え興味深いものですが、山口県の４点の作品は真摯な取り組みが感じられる、高校生らしい好感の持てるものに仕上がっていました。

大会後、書道部門責任者の先生から鳥取県の取り組みの実状を聞く機会を得ました。専任の書道教員がごく僅か、学校数も少なく地理的に分散している等の悪条件を克服して、合宿や合同練習を重ねていったこと。その中で発揮された生徒の個性、能力が共同作品や大会運営に繋がっていったこと等、大変参考になりました。

３．山口県教員書作展

久しぶりに山口に戻り８／25～８／29の５日間、クリエイティブ・スペース赤れんがで開催しました。30回展に向けての第一歩です。これから予想される厳しい教育状況のもと、私達教員の日々の研鑽の成果を問い、又生徒との関わりの中から生み出される作品を発表していきたいと願っています。

４．県高総文祭展示部門発表会

11／６～８の間、萩市民館展示ホールに24校、87点の作品がすっきりと展示されました。この発表会を目標に部活動に励み、努力を積み重ねている生徒の力作です。全国大会には、防府、宇部西、高水高の４点が選ばれました。今回嬉しいことに養護学校（萩養護）から初めての出品があり、私達に書くことの原点を問い掛けてきました。主管校の萩光塩学院高校、萩地区の先生方には大変お世話になりました。

５．書道部門会議

12月３日、宇部工業高に16名が集まり、本年度の反省をもとに来年度諸行事について話し合いました。特に県高総文祭展示部門発表会については開催要項、講評会、審査方法等を検討し改善を加えました。また来年度は初めて生徒のための研修会を開くことも決定しました。書道部門を充実したものにする為、多くの先生に出席して頂き、本音で話し合う会議にしていきたいと思います。

写真部門

理事長　藤川明徳
（徳山高等学校教諭）

平成10年度山口県高文連写真部門の主な活動は次の３つの事業でした。

１．県総合文化祭開会式慶祝展示

激しい雨の中を会場の柳井市「サンビームやない」で式典は開かれました。

写真部は例年のように、全国大会へ出展するハイレベルな作品（下記の５点）を展示しました。

徳山高校	柿本真宏	あー高校生
徳山高校	椎木良憲	高校生
南陽工業	佐伯健太郎	雨上がり
小野田工業	管能　剛	夏　仲間
美祢工業	山岡隼人	漁村

２．全国総合文化祭鳥取大会

上記５点を出展しましたが、残念ながら入賞はしませんでした。

写真部は米子市を中心に展示会場、撮影会場とも大山山麓ですばらしい環境の下で開かれ参加生徒諸君は大喜びでした。

全国の作品を見て、次のことを感じました。今後の作品作りに参考にしてください。

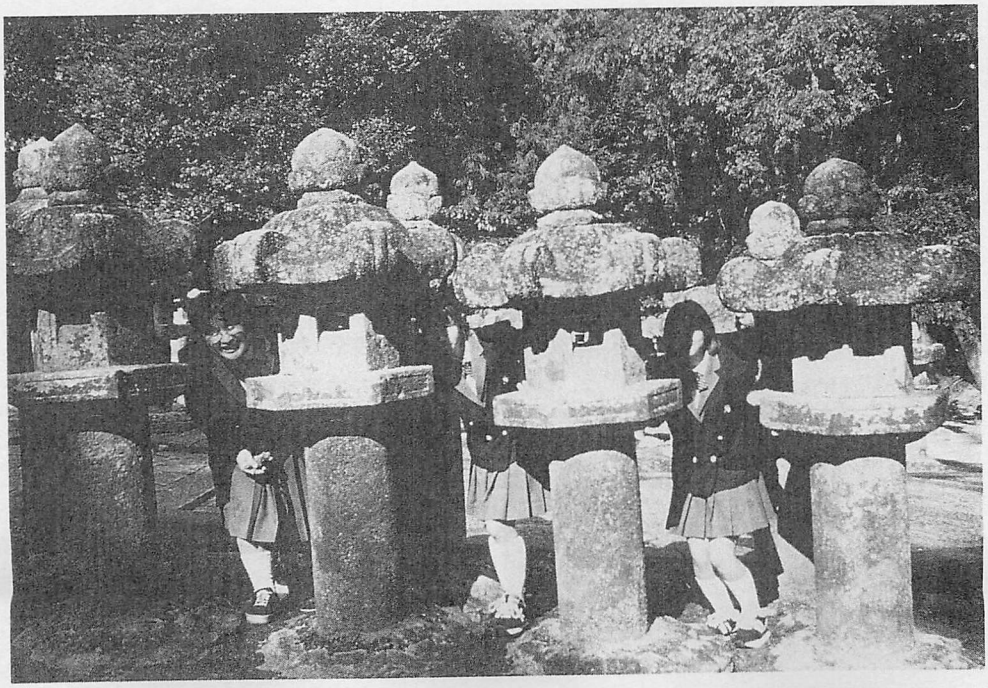
◎カラーの作品が多くなっている。入賞作品にもカラーの比率が高くなっている。

◎全体のレベルが高くなっている。

今回の理事長会で話題になり、決定は先送りになりましたが、早かれ遅かれ、姿勢を決めなければならないのはコンピューター処理された作品を如何に評価するかの問題です。もう、こんな時代に入っているのです。

３．県総合文化祭展示部門

本誌第20回山口県総合文化祭展示部門に掲載します。

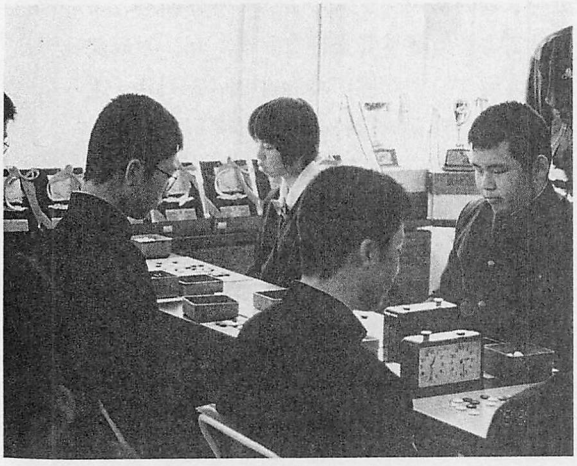


◀ 写真専門部研修会(萩市)

囲碁部門

理事長　井口秀是
（防府高等学校教諭）

昔、中国で北斗星の神と南斗星の神がひたすら碁を打っていたが、南斗星の神が十九才で死んだ子供を、字順を変えて九十才まで生きれるようにさせ、親の願いを叶えた話しがあります。囲碁が人を夢中にさせ、囲碁の持つ不思議な雰囲気が感じられます。本年度の囲碁部門の大会は昨年より20名増で、これをきっかけに更に盛んになって行くことを期待します。



さて平成10年度の山口県高文連囲碁部門の主な活動は以下の通りです。

1．山口県高校総合文化祭総合開会式慶祝展示

6月19日～21日までサンビームやないで開催されました。囲碁部門の慶祝展示は会場の関係で全国高校総文大会の対局風景の写真四つ切り2枚を掲げました。団体戦の熱戦のものです。

2．第20回県高校総文祭囲碁部門第10回大会

兼全国高校総文祭囲碁部門第12回大会県予選10月25日(日)に防府高校で開催され、参加人員は男女合わせて68名でした。

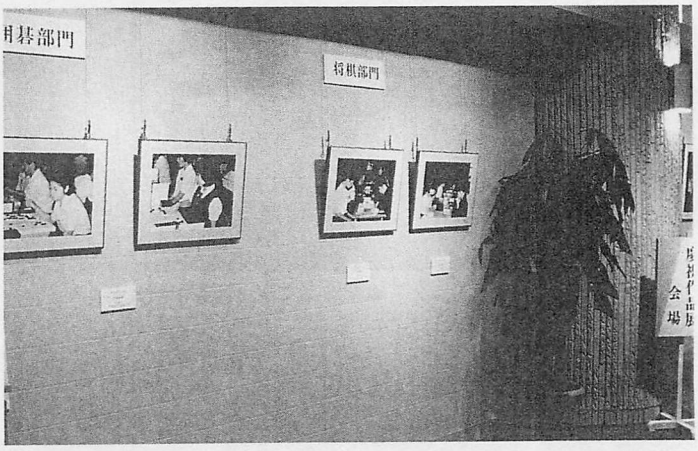
4回の対局で成績は次の通りです。

＜団体戦＞男子　優勝　防府商業高等学校
準優勝　宇部鴻城高等学校
第3位　防府高等学校
女子　優勝　防府高等学校
準優勝　小野田高等学校

＜個人代表決定戦＞
男子　優勝　足達史招　水産高等学校
女子　優勝　今井幸恵　宇部女子高等学校

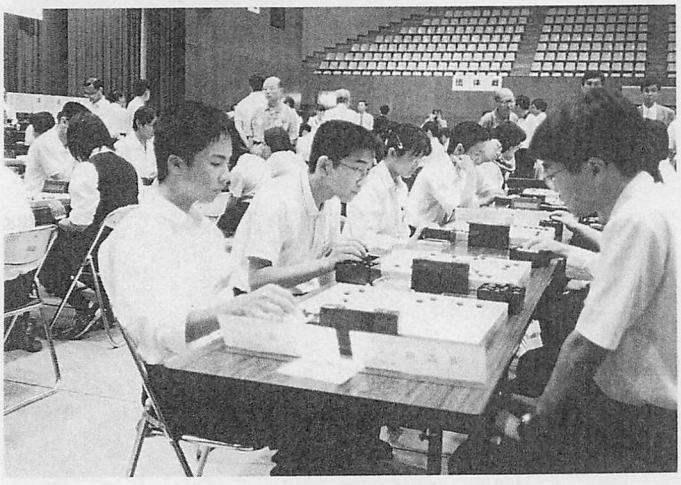
＜団体代表決定戦＞
男子　優勝　岡田一貴　宇部高等学校
優勝　工藤悠治郎　田部高等学校
女子　優勝　國吉沙織　小野田高等学校

団体代表決定戦、個人代表決定戦の勝者は、平成11年8月2(日)～3日(月)　山形県での全国高校総文祭に出場する予定です。



3．第22回全国高校総文祭囲碁部門第11回大会

平成10年8月10～11日、鳥取県倉吉市倉吉体育文化会館にて開催されました。山口県代表は前年度の県予選大会の優勝者が出場しました。



▲全国高文祭（囲碁部門大会）

山口県代表は前年度の県予選大会の優勝者が出場しました。皆よく健闘しました。団体戦では全国25位、男子個人戦は35位、女子個人戦は20位でした。

４．県高文連囲碁部門研修会

平成11年２月14日、山口市の山口南総合センターで開催されました。

渡辺堅一プロ（日本棋院六段）による全国大会出場者及び初段クラスの者への対局指導、また教員による指導碁等を行ないました。対局終了後、渡辺プロより適切な助言をいただき、生徒は意欲をかき立てられ、実りの多い一日だったと思われます。

全国的には高文連と高囲連の合併の方向にあり、中国地区においても高文連、高囲連一体で中国地区大会の第２回大会（広島市）が開催されました。今年の高文祭の大会は参加者がふえて熱気が漲りました。高校生一人一人が仲間を作り、大会に参加させ、大会を盛り上げて行って下さい。流れはできつつあります。

演劇部門

理事長　三藤真人
(厚狭高等学校教諭)

1．高校によっては学級数減の動きの中で、部員の確保・獲得が困難になってきている。県下、演劇部の状況を見るに、部員数が10名を下まわる学校が、かなりでている。演劇にはどうしても多種・多様な力の調和が必要になる。少人数ではそれがとても苦しくなる。部は存在しても地区での上演ができない。この苦境にあって、朗報一つ。周防地区に光丘高校を迎えて37校に組織をふくらませることができたこと。

2．7月23日、下関文化会館での演技・照明の講習会。山口の矢野先生、下関の倉田先生の講話と、舞台上での照明効果の実際指導。さらに高校生の具体的舞台の演じ方についてのご指導と一日いい勉強をした。参加者も多かった。

3．今年は、全国大会が鳥取市ということで、8月8日～11日、県下の部員有志40名程が鳥取市近郊の海の家を宿に大会鑑賞に出かけることができた。地区大会の迫っている時期で、自校の稽古も朝・夜中と続けながらという高校もあったとか。それでも全国大会のレベルの舞台に直接触れた収穫は大きかったと思う。見る目を養うことも自分の表現を豊かにする。

4．さて8月も下旬、夏休みのしめくくりは私たちの出番。県の高総文に向けての出発だ。下関地区をかわきりに、他3地区一斉に地区大会。暑い夏日より更に熱い熱い情熱のほとばしり、毎年意欲満々の舞台が展開される。地区内での交流、友情の輪も年々しっかりとむすばれてきている。上演校数の多少はあるが、皆、一生懸命、精一杯の発表はすがすがしい。

5．県の総文祭（県大会がその仕上げ）については別に述べるので省略。　11月21日～22日、下関市民会館大ホール。中国地区高校演劇発表会。山口県から3校、他県からの各県2校の舞台。常連校といえる学校も何校かあり、味わい深く感動的な2日間。

県下の演劇部顧問、下関の高校生は発表会の運営に奔走したが、その中で演劇の生きた勉強をしたともいえる。キャスト、観客、スタッフあっての舞台。演劇すべからく演じるにあらず。

この発表会では、従来山口県大会の講師をして頂いていた篠崎光正先生と昨年に続いて伊藤弘成先生に講師・審査員としてご来県いただいた。全国の高校演劇の問題となってきている演技の模倣などによる著作権問題に因んで、篠崎先生のお言葉「プロの劇団の真似事という限りあるコスチュームプレイに固まるな。制限の無い果てしない人間の行動こそ、高校生君達のお得意のはず」と。印象的だった。

中国地区から、来年の山形全国大会へは出場校枠が2校にひろがった。そんな中で、山口県立岩陽高校の「落第の名人」が文部大臣賞（最優秀賞）に選ばれたことを喜びたい。

作年度から今年度、忙しい思いをしたが、実り大きい活動となった。

放送部門

理事長　青木幸子
（山口農業高等学校教諭）

1．県高総文祭総合開会式

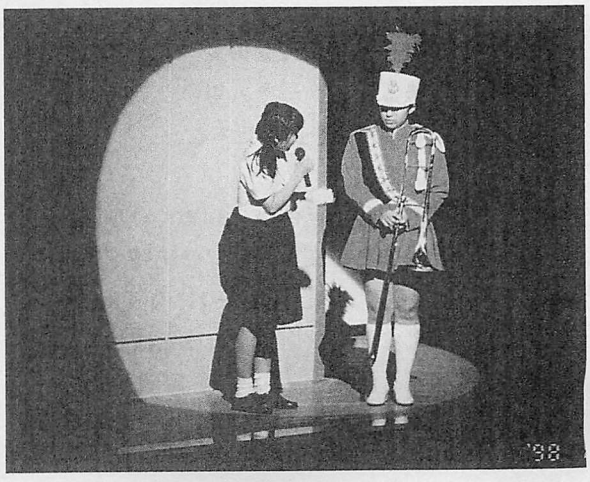
本年度は、柳井高等学校主管のもと、サンビームやないを会場に行なわれました。今まで放送部という形で活動を行なっていなかった柳井高校ですが、この日のために１年間かけてプロジェクトチームの大特訓が行なわれたということです。

司会進行のみごとさはもちろんのこと、みなを驚かせ、そして、とりこにしたのは、幕間に繰り広げられたインタビューでした。一口にインタビューといっても簡単なものではありません。こんな時にはこの質問、こんなタイプの相手なら、こうつっこんで、もし、しらけたりしたら、アドリブでつっこんでと、さりげなく、実に自然に行なわれたインタビューでしたが、そのかげでの努力の日々を聞き、なるほどと深い感動を覚えたのは多分私一人ではないと思います。これから放送部会の秘蔵品にしたいと思うほどのインタビュー特訓帳。何百枚というカードにびっしりと書かれたインタビューの話題の数々には、深い感銘を覚えたほどです。総合開会式において、放送部会の役割は、あくまで「縁の下の…」です。演ずる人々、観客の人々、みなが良い会であったと、少し胸のあたりがあったかくなる時間、それをお手伝いするのが、まさに放送部会の役割なのだと、しみじみ思った開会式でした。

「一年間の総仕上げなんだと思うと、あがったり、どきどきするよりも、なんだか、ワクワクして、うれしくてたまらなかった」と語ってくれた柳井高校。そして、熊毛南高校の放送部のみんな。放送活動の原点をあらためて教えてくれたみんなに心から拍手を送りたいと思います。

2．全国総文祭（鳥取大会）

８月10・11日の２日間、おちゃめなキャラクター「ハローくん」のむかえてくれた鳥取県・米子で全国大会が開催されました。浴衣姿でＭＣをこなす生徒に乗せられて、演ずる人も、聞く人見る人も、なごやかなムードの中で、じぶんらしさ、いつもの私らしさを十分発揮できた大会であったと思います。山口県大会においては、負けられないライバルとして競ってきた人々が、山口の仲間として本当にガッチリ組んで練習に励む姿は、なんともいえず心打たれる風景です。学校を越えて放送を通しての仲間達と、今自分の思っていること、感じていること、嬉しいこと、悲しかったこと、将来について…など、心打ち解けてかたりあえるのが全国大会の良さかなあとしみじみ感じるシーンが多々ありました。オーディオ作品やビデオメッセージを見ながら、他県のレベルの高さに感動したり、



▲県高総文祭（総合開会式）インタヴュー風景

この発想がおもしろいと、作品ごとに自分達の自作の種をもらったようにワクワクしたり…と。

来年度の山形大会は『言葉』がテーマだと聞きさっそく方言談義に花が咲いていました。

3．県高校総合文化祭放送部会

本年度は、山口農業高校主管のもと11月８日、ニューメディアプラザ山口において第５回放送部会が開かれました。前日の仕込み準備終了後から、アナウンス・朗読の熱心な練習がスタートしました。マイクのチェック、音量、スピード等、ほんの短い時間ではありましたが、皆の本番にむけての意気込みが会場全体を包みこんでいました。山口放送からアナウンス部の勝正男アナウンサー、テレビ制作部から竹村昌浩さんが審査員としておいで下さいました。毎年更新している参加人数、参加作品数ですが、今年はビデオ作品がグーンと増え、午後からの作品発表が実に充実したものとなりました。

▲県高総文祭（放送部門）

4．放送部会研修会

本年度は８月23日「一日かけてタップリと」のスローガンのもと、山口農業高校研修会館で研修会が行なわれました。午前中は、多くの学校からのリクエストで「みなで学ぼう、アナと朗読の基礎」ということで、外郎売りからスタートして、あたらしい試みとしてはＣＭにトライというところまでやってみました。プロのつかっているテキストで（某キー局）本物のアナウンサーやＤＪのしゃべっているテキストを使ってということで、みんなのテンションも上がって、午前中は大盛況でした。いつも練習中困っていること、わからないことを、率直に語り合って、和気あいあいのいいムードとなりました。午後からはＮＨＫのチーフアナウンサー生熊雅夫さんによる講義の予定だったのですが、急に実践講座へと早変わり、一番あわてたのは顧問の先生方でした。生徒だけの実践練習と思いきや、なんと先生も一人一人発表ということと相成り、先生方は大あわて。でも、いつもとちがった先生方の一面をみて、生徒も大感激でしたし、先生方も、生徒の味わう緊張のほどを身をもって実感出来た良い会でした。口先だけで「リラックスしてね。」「ゆっくりね。」など言えなくなって、きっと今、彼等はこんな心の状況で…あるからして、アドヴァイスとしては…と、今までにない生徒指導のアプローチを学ぶことのできた充実の会でした。来年は２泊３日の合宿形式でとのリクエストも出ていて、放送部会理事は次回研修会に向けて、早くも準備開始です。

将棋部門

理事長　弘中敏之
（防府商業高等学校教諭）

山口県高等学校文化連盟に正式加盟して３年目となる本年度は、専門部事務局を防府商業高校に移し、次の３つの事業を実施しました。

１．山口県高等学校総合文化祭
総合開会式の慶祝展示

熊毛南高校、下松高校を中心に、対局の模様を写した半切の写真二葉が展示されました。会場であるサンビームやないの構造上、期間は総合開会式の行なわれた６月19日（金）の１日間のみとなりました。簡素な中にも、対局時の緊張感がよく伝わる展示となりました。

２．第20回山口県高等学校総合文化祭
将棋部門大会　兼
第34回全国高等学校将棋選手権大会県予選

防府商業高校主管のもと、５月31日（日）に中国新聞山口支社３階ホールにおいて開催されました。昨年に続き山口県教育委員会の中村指導主事、本連盟の森本会長を来賓としてお招きすることができました。生徒数が急減する中で13校から544名の参加者がありました。特に女子の参加が見られ、今後の参加者の拡大が期待されます。運営についても、個人戦において新たにＢ級を新設し、内容の一層の充実が図られました。団体戦では宇部高校が優勝、個人戦Ａ級では厚狭高校の金築君が３連覇を果たし、各々全国高等学校総合文化祭鳥取大会に出場しました。

３．山口県高等学校文化連盟将棋専門部研修会

防府商業高校主管により、11月８日（日）防府市文化福祉会館で行なわれました。顧問の先生を中心とした大会運営や指導技術の向上を目指した研修、及び１・２年生の男女生徒38名の棋力向上を図った対局指導が行なわれました。県下から12校の参加をいただき、質・量共に過去最高の研修会となりました。特に、日本将棋連盟普及指導員の方々のご協力の下、全員に棋力の認定証が発行され、参加した生徒の大きな励みとなりました。対局結果は、徳山高校の吉岡拓馬君と、宇部高校の浦野浩一君が好成績を収めました。

年間を振り返ってみて、指導運営体制の更なる充実が求められるものの、参加普及については、関係諸団体との連携の下、着実に前進している様子がうかがえました。特に、先の諸事業では女子生徒の参加・健闘が見られた他、参加者の大幅な増加も見られました。こうした流れがより深いものとなるように、一層のご理解とご協力をよろしくお願い致します。

第20回山口県高等学校総合文化祭の記録

総合開会式

会場：サンビームやない

主管校　福田　徹
柳　敏恵
（柳井高等学校教諭）

第20回山口県高等学校総合文化祭総合開会式は『響け 文化の音色　輝け みんなの創造』をテーマに平成10年６月19日（金）サンビームやないで開催されました。

当地柳井では初めての開催であり、いくつもの難課題を何とかクリアしての開催でした。会場への道路事情が悪く、かつ会場の駐車場が狭いことを始め、会場そのものが手狭であり出演者が待機する部屋もなく、慶祝展示の場所も狭いなど、数え上げたらきりがありません。一箇所の会場で集中して全てを処理することが不可能であるという大きな課題を抱え、前回の岩国の会場を羨ましく思いながら、「あれはどうするか。これはどうするか。」と、校内や地区及び県の関係の先生方の知恵を拝借しながら一つ一つ問題を解決し、何とか開催にたどりついた大会でした。途中何度「柳井で開催するのは無理じゃねえ。」と思ったか知れません。会場近くの柳井小学校、柳井市体育館、柳井市文化福祉会館等の施設もお借りしました。特に、一番近い柳井小学校は、来賓の控室として会議室、駐車場としてグラウンド、出演者の待機場所として体育館をお借りしました。平日ということで、授業に差し支えるなど多大なご迷惑をおかけしたにもかかわらず、全面的に御協力を頂き誠に有難い次第でした。

時期的にも雨が心配される頃ですが、心配は的中し、初日から大雨という天候で大会は始まりました。式典には、牛見正彦教育長、河内山哲朗柳井市長をはじめ多数のご来賓をお迎えし、多数の出演者と聴衆の皆様とで盛大に開会式が行なわれました。まず、柳井高校生徒代表の星出拓也君の開会宣言に始まり、熊毛南高校の佐々木真一先生の指揮により、先生自らこの開会式

のために作曲されたファンファーレが、柳井地区高等学校合同吹奏楽団により高らかに会場内に響きわたりました。続いて『高文連の歌』の演奏と同時に各13専門部のプラカードを持った柳井高校女生徒の入場に移りました。

▲柳井高等学校生徒代表

その後、森本紘史高文連会長、牛見正彦教育長、主管校生徒代表として浜田高太郎生徒会長の挨拶、河内山哲朗柳井市長の歓迎のことばと式典は続きました。そして、高文連功労賞として桂雄三徳山高等学校長が表彰されました。桂雄三校長は、平成６年度から７年度まで、山口県高文連会長としてご尽力され、組織の確立と高校生文化活動の発展に寄与されました。また、今年度のテーマ最優秀賞として柳井高校２年三枝愛さんが表彰されました。式典の最後として、各専門部の活動が、アナウンスとスライドで紹介され40分にわたる式典が終了しました。なお、この式典の司会進行は、熊毛南高校放送部が務め、見事な進行を披露してくれました。

主管校の総務の一人としてこれで一つ無事に終わりほっとしましたが、次は慶祝演奏に移ります。司会進行も柳井高校の生徒にバトンタッチされました。

午後１時50分からの慶祝演奏は、三田尻女子高のバトントワリングと山口県鴻城高校のマーチングバンドによる華やかな演奏で幕開けしました。続いて、柳井高校と柳井学園高校による箏曲の演奏、そして柳井地区高等学校合同吹奏楽団による演奏が行なわれました。それぞれの学校間は、かなり距離も離れており、合同での練習は３回のみという厳しいスケジュールでしたが、生徒たちの若さあふれるパワーと集中力で、迫力あるサウンドがホール一杯に響き渡りました。そして最後は約500名の山口県高等学校合同合唱団と約100名の山口県高等学校合同管弦による『大地讃頌』そして『タンホイザーより大行進曲』の演奏でした。熱のこもった演奏に、演奏者も観客も一体となった、感動的なステージでした。主管校である柳井高校の１年生全員も鑑賞させていただき、素晴しいステージに耳も目もくぎづけだったようです。

たくさんの障害を乗り越えての開催でしたが、生徒たちにとっては高校生活の１ページとして、とても大きな思い出ができたことと思います。

最後に、この大会を開催するにあたり柳井地区の先生方にはずいぶんとご負担をおかけしました。高文連事務局、専門部理事長の先生方の的確なご指導ご助言も頂きました。慶祝展示も芸術関係の先生方を中心として、諸事情で例年より規模を縮小せざるを得ませんでしたが、立派な作品を展示していただきました。このように多くの先生方や諸機関のご支援を賜り、お陰さまで無事終えることができましたことを心から感謝いたしております。また、補助員として協力してくれた多くの生徒の皆さん、大変お疲れ様でした。

来年は下松でお会いしましょう。

◇慶祝演奏

＜マーチング・バトントワリング＞
『ホワイトブレス』『ホワイトラブ』
【出演】三田尻女子高等学校
山口県鴻城高等学校

＜日本音楽＞
箏曲『薫る花』
【出演】柳井高等学校
柳井学園高等学校

＜吹奏楽＞
『日本民謡メドレー』『マンボNo. ５』
【指揮】宮本敬司
【演奏】柳井地区高等学校合同吹奏楽団

＜合唱・器楽管弦楽＞
『大地讃頌』『タンホイザーより大行進曲』
【指揮】柳　敏恵
【演奏】山口県高等学校合唱団
山口県高等学校管弦楽団

＜全員合唱＞
『みんなのふるさと』

◇慶祝展示

＜美術・工芸＞【出品校】柳井　柳井工業
熊毛南　田布施工業　岩国　岩陽
岩国工業　……各高校
＜書道＞【出品校】柳井　下松　徳山
下関女子短大付属　……各高校
＜写真＞【出品校】徳山　小野田　美祢工業
南陽工業　……各高校
＜囲碁＞【出品校】防府高校
＜将棋＞【出品校】下松　熊毛南　……各高校

◇進行アナウンス

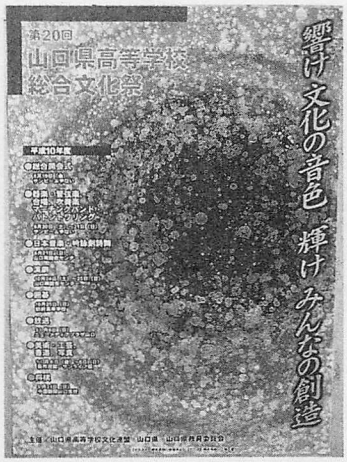
・式典進行　熊毛南高校放送部
・慶祝演奏進行　柳井高校放送部

◇合同編成出演校

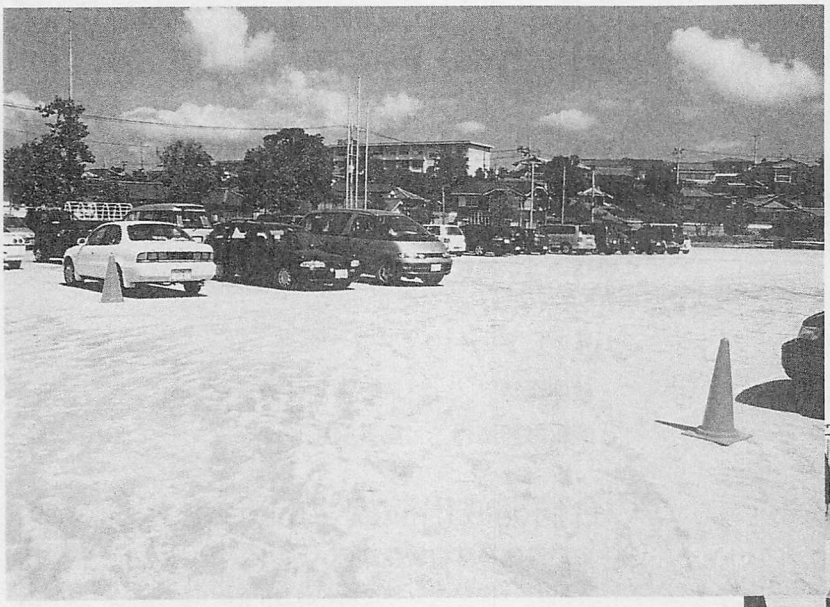
・山口県高等学校管弦楽団
柳井　下関南　防府　山口中央
下関第一　……各高校
・山口県高等学校合唱団
岩国　徳山　防府　山口中央　野田
宇部　宇部中央　香川　サビエル　萩
奈古　萩光塩　長府　……各高校
・柳井地区合同吹奏楽団
安下庄　久賀　柳井商業　柳井学園
熊毛南　田布施農業　柳井　……各高校

▼柳井地区高等学校合同吹奏楽団

第20回山口県高総文祭　総合開会式　会場：サンビームやない



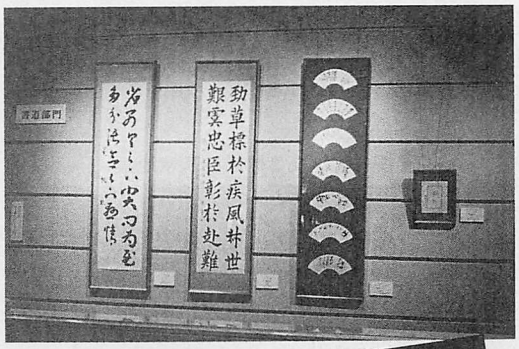
▲砂田みどり（柳井高校）さんのイラストを基にしたポスター



▲総合開会式会場駐車場風景

▲表彰式風景

▲受付風景



慶祝展示▶

▼慶祝展示

▲幕間のインタビュー

第20回山口県高総文祭の記録

県高総文祭・音楽関係４部門発表会

器楽・管弦楽部門

会場：サンビームやない

理事長　松永忠雄
（下関南高等学校教諭）

平成10年度第20回山口県高等学校総合文化祭の音楽関係４部門発表会は６月20日（土）、21日（日）の両日、白壁のまち柳井の“サンビームやない”において例年の如く、高文連各部門のトップを切って開催されました。また、その前日の19日（金）には、総合開会式が満員の聴衆を集め盛大に行なわれました。

器楽・管弦楽部門でも例年のように合唱部門と合同で式典の慶祝演奏に参加しました。今年度は前年の“シンフォニア岩国”に比べステージがやや狭く、オーケストラの編成を80名程度に抑え演奏しました。それでも300名を越える合唱と管弦楽のハーモニーがホールいっぱいに響き渡りました。演奏曲目は「大地讃頌」「タンホイザー大行進曲」の２曲です。柳敏恵先生（柳井高）の女性らしい優雅で的確な指揮のもとで、開幕式典にふさわしく、輝かしい音楽が見事に演奏されました。その演奏は聴衆の方々に深い感銘を与えたことと思います。

さて、当日の式典後から３日間にわたって開催された音楽関係４部門発表会の器楽・管弦楽部門には今年度もオーケストラ５校、ギター、マンドリン合奏２校の出演があり、多数の参加のあった吹奏楽部門（50数校）に混じって、一服の清涼剤ともいえる演奏を披露しました。各校ともに弦楽器独特の艶やかで、柔らかい音色を備えた立派な演奏で、大会を大いに盛り上げました。

次回の下松大会ではさらに練習に励み、研鑽を積んだ成果が十分に発揮されることを期待しています。

合唱部門

会場：サンビームやない

理事長　石島栄子
（野田学園高等学校教諭）

平成10年度山口県高等学校総合文化祭の音楽部門の発表会は6月19日（金）、20日（土）、21日（日）の３日間、サンビームやないにて開催されました。19日の開幕式典の大合唱の興奮も醒めぬままの会場で高校生の熱心な演奏が続きました。

合唱の良さを発揮するのに適した、柔らかくて美しい響きのする、サンビームやないの舞台で演奏することが出来たことを感謝しています。

合唱部門の発表は、ほとんど土曜日に集中、午前の初めと午後の初めとに分けてプログラムは編成されていて、二つのグループに時間的ゆとりがあったので、お互いを聴く時間が持てたことは嬉しいことでした。ただ、午前の初めの学校は、朝が早いので発声上の問題で声が出しにくかったのではないかと心配しています。

合唱部門の出演校は13校（岩国、高水、防府、防府西、山口中央、野田、宇部、宇部中央、香川、長府、萩、萩光塩、奈古）、出場者数は351人でした。常連校に加えて、防府西校はクラス全員でクラス合唱を試み、高校生の青春している姿を披露してくれました。

あらゆる場面で生まれる
美しい音楽の響きは
私たちに生きている証と幸せを
実感させてくれます。

全ての人の幸せを心から祈りながら……

▼宇部高等学校

吹奏楽部門

サンビームやない

主管校　柳　　敏恵
（柳井高等学校教諭）

第20回山口県高等学校総合文化祭音楽４部門の発表会は6月19日（金）、20日（土）、21日（日）の３日間、サンビームやないにて開催されました。吹奏楽部門からは49校1534名の参加を得ました。

柳井市という小さな町で、しかも初めての開催ということもあり、道路事情や天候など心配されることも数々ありました。そういった数々の不安を打ち消すかのように数多くの学校が参加して下さり、盛会のうちに音楽会を終えることができました。

生徒数減少の波は吹奏楽にも影響を及ぼし、少人数で参加された学校もたくさんありましたが、どの学校もそれぞれ素晴しい演奏を披露され、生徒一人一人が輝いて見えました。

ただ、午前中の客席が寂しかったことは残念に思えました。一年に一回の演奏会でもありますし、互いの演奏を聴きあうことが文化を高める大切なことと思います。

開幕式典への参加は柳井地区７校（柳井、柳井商業、久賀、安下庄、柳井学園、熊毛南、田布施農業）合同吹奏楽団を編成し、熊毛南高校の佐々木真一先生の自作の素晴しい「ファンファーレ」「高文連の歌」で華やかに開幕し、慶祝演奏では久賀高校の宮本敬司先生の指揮で「日本民謡メドレー」「マンボNo. ５」の２曲を演奏しました。どの曲も素晴しい演奏で聴衆に深い感銘を与えました。

最後は、柳井高校の伴奏で「みんなのふるさと」を全員合唱して閉幕しました。

来年度も“スターピアくだまつ”で若さ溢れる素晴しい演奏を期待しています。

３日間、裏方として演奏会を支えてくださった皆さんに心よりお礼申し上げます。

▲徳山北高等学校

マーチングバンド・バトントワリング部門

会場：サンビームやない

理事長　花村慈照
（宇部女子高等学校教諭）

第20回山口県高等学校総合文化祭音楽４部門の発表会は、総合開会式終了後の6月19日（金）、20日（土）、21日（日）の３日間、サンビームやないで開催されました。マーチングバンド・バトントワリング部門には、５校145名の参加がありました。19日（金）の慶祝演奏演技では、山口県鴻城高等学校の演奏のもと、三田尻女子高等学校の演技で「ホワイトブレス」「ホワイトラブ」の２曲を披露しました。２日目の６月20日（土）の音楽４部門の発表ではバトントワリングには宇部女子高等学校の「 Welcome to Toontown」、三田尻女子高等学校「ウォルトディズニーからDream」、早鞆高等学校「I'll be there for you 」の演技を行い、マーチングバンドでは県立佐波高等学校「スターウオーズ・エビック」、山口県鴻城高等学校「 Throwdown 」「 Love the world away 」の曲でステージドリルを行いました。ステージいっぱいに各校とも特色のある演奏演技を行いました。

『県総文祭の想い出』

宇部女子高等学校ブラスバンド部

私たちは、６月20日（土）サンビームやないで行われた県総文祭には吹奏楽とマーチングの２つの部門に参加しました。音出しは近くの小学校で行いました。そこでは他校の人達も練習しており、音の力強さに驚きました。本番直前の練習で先輩が言った「きれいに」という言葉が、私達の不安を軽くしました。本番では精一杯の力を出しました。最後の音の響きは現在でも私達の胸の中に響いています。

▼三田尻女子高等学校

『県総文祭に参加して』

早鞆高等学校バトン部

私達は６月に行なわれた県総文に向けて、４月頃から振り付けを考えました。その時、気を付けたことは、曲がリズミカルな感じだったので、みんなにもその楽しさが伝わる様に考えました。練習ではみんなの息がピッタリ合うまで何度も何度も振り付けを合わせ、納得のいくまで練習しました。本番でも、この練習の成果がチームワークのよさを発揮でき、全員が満足のいく演技が出来たと思っています。この県総文祭が私たちの部活動も今までよりも更にチームワークの絆が深まってきました。バトン演技は、全員が一つにならなければ美しい演技は出来ません。これからもチームワークを活かしてがんばっていきたいと思います。

▲慶祝演奏

▼県鴻城高等学校

▼宇部女子高等学校

第20回山口県高総文祭の記録

県高総文祭・日本音楽・吟詠剣詩舞部門部門

会場：山口南総合センター

主管校　藤井紀代子
（山口県鴻城高等学校教諭）

『響け 文化の音色　輝け みんなの創造』というテーマのもと、第20回山口県高等学校総合文化祭・日本音楽部門発表大会が平成10年６月21日、山口市名田島・山口南総合センターで開催されました。

本校が主管校としてお世話することになりましたが、文化活動の大会引き受けは不慣れな為、準備段階から戸惑うばかりでした。

当日は、本校のクラブ活動を中心に学校全体が一丸となり、誠意を込めて努力したつもりではありましたが、行き届かないことも多く、ご迷惑をおかけしたのではないかと心配しております。

さて、県大会は本校がトップバッターをつとめ、その後はすぐ裏方にまわり大会の運営に従事しました。箏曲を中心に、県下17校147名の皆さんから18演目のすばらしい演奏が披露されました。毎年同時に開催していた吟詠剣詩舞部門が作年度から休部となり、この日も日本音楽部門だけの開催でしたが、日頃の熱心な練習の成果を十分発揮され、観る人の心を強く惹きつけ大きな感動を与えてくれました。

勇壮な平家太鼓の響きに三味線や威勢のよい音頭、また、力強くも優雅な大内姫太鼓、箏曲では独奏やフルート、歌との合奏など各校とも趣向をこらしていて、和洋楽器の見事なハーモニーが会場内に響き渡りました。

閉会式では、松村房子先生に温かい励ましの言葉と示唆に富んだご講評をいただき、参加者の胸に深く刻まれたことと思います。

最後に、今大会が関係の皆様方のご援助と御協力のおかげで無事終了することができましたことを心から感謝し、厚くお礼を申し上げます。

今後とも、伝統ある日本音楽が若い高校生に引き継がれ益々発展していきますよう念願しています。ありがとうございました。

第20回山口県高総文祭の記録

県高総文祭・展示関係部門

会場：美術・工芸部門……サンライフ萩
　　書道、写真部門……萩市民館小ホール・講義室

主管校　橋本秀宏
（萩光塩学院高等学校教諭）

今年度の山口県高等学校総合文化祭の最後の作品展は、11月６日（金）７日（土）８日（日）の３日間、萩市民館を中心に開催されました。本校は主管校としてお世話させていただきましたが、これほどの大きな会の運営準備は初めての事で、改めてこれまでの主管校のご苦労を教えられました。前年度主管校のフロッピーを利用させていただき、また、平成元年の萩大会の資料も参考にさせていただき、独自のものは何もありませんが、どうにか例年どおりの開催に漕ぎ着けることができた事に感謝しております。

さて、初日のオープニングセレモニーは、野村興児萩市長、岡村萩市教育長等のご来賓、長北地区各高校の校長先生出席のもと、127名の生徒の参加、萩光塩学院高等学校吹奏楽部のファンファーレ、テープカットと華やかに開催されました。なかでも生徒代表の磯部さんの「この大会をとおして、作品を鑑賞することにより、多くの心からの友が出来ることを期待します」という言葉が多くの共感を得たようでした。

６日、萩市民大学の田子みどり氏の講演会が大ホールであり、市民館長の勧めもあって、より多くの方々に鑑賞してもらいたいとの思いから７時まで開場延長をしました。また最終日の８日には詩吟・吟舞の大会が大ホールで一日中あり、約500名の出演者とその観客が本会場にも出入りしてくれました。高校生の作品のレベルの高さに一様に賞賛の声をいただきました。

会場としては美術・工芸がサンライフ萩、書道が市民館小ホール、写真は市民館講義室二室と離れ離れのため、案内板は用意したものの、小ホール中心の鑑賞になったようにも思います。

また、前日の『サンデー北浦』の一面に本大会の案内文を掲載していただきましたが、鑑賞者は少なかったように思います。多くの市民が往来する街、会場となるべき満足なスペースのある建物のない、北浦では仕方ないことかもしれません。

作品のレベルは例年以上に高く、全国大会出場をねらっていた各校の顧問の先生方も悲喜こもごもでした。しかし、工芸の作品が一つもなく、萩大会としては淋しい気もしました。次回は焼物や石膏像、木彫り等の作品が出品されることを希望します。

講評会は、北浦の不便な土地にもかかわらず多くの高校生の参加を得、各校のご理解、顧問の先生方の愛情を感じずにはいられませんでした。また、写真の柴田先生のご講評をはじめ各部門の、ご熱心でこまやかなご講評は、生徒たちの今後に大きな糧となることと思います。

以上思いつくまま感想を述べました。この一年間本大会を運営して行くにあたり、萩市の助成、萩市民館・サンライフ萩のご協力、多くの先生方、生徒の皆さんのご協力を賜りおかげで主管校の未熟さにもかかわらず、無事大会を終え所期の目的をはたすことができました。感謝の意を表し報告とさせていただきます。

第20回山口県高総文祭の記録

県高総文祭・展示部門　美術・工芸、書道、写真…展

【会場】＜美術・工芸＞　サンライフ萩
　　＜書道、写真＞　萩市民館小ホール・講義室

【日程】11月５日(木)　展示準備
　　15：30　審査会
　　11月６日(金)　10：00　オープニングセレモニー
　　10：30　開場
　　11月７日(土)　10：00　開場
　　11月８日(日)　10：00　開場
　　13：30　講評会
　　16：00　撤去

【参加校】・美術 35校・書道24校・写真13校　計 72校

【出品数】・美術138点・書道83点・写真74点　計295点

【　賞　】（別項）

【入場者数】11月６日…112名／11月７日…129名
　　11月８日／404名　　〔合計645名〕
　　（大ホール催し物のため実数不明、目録目録渡し数のみ）

【地区運営委員総数】…… 22名

【協力生徒総数】……151名

▲生徒代表あいさつ（萩光塩学院高等学校）

▲書道部門講評会

▲美術・工芸部門講評会

▼写真部門講評会

第20回県総文祭展示部門出品校一覧表

	学校名	美術・工芸		書道		写真			学校名	美術・工芸		書道		写真	
01	安下庄							48	田部						
02	久賀							49	西市						
03	岩国	2	B	4	A			50	豊浦	5	A				
04	岩陽	5	A					51	長府	4	B				
05	岩国商業							52	下関西	3	A	4	A		
06	岩国工業							53	下関南	3	A				
07	坂上							54	下関第一			4	A	3	B
08	広瀬	1	B					55	中央工業						
09	高森	5	B			10	A	56	下関工業						
10	柳井	1	B					57	響						
11	柳井商業							58	豊北						
12	柳井工業							59	日置						
13	熊毛南							60	大津	5	A	4	A		
14	田布施農業							61	水産						
15	田布施工業							62	萩	5	A	4	A		
16	光							63	萩商業	5	A	4	A		
17	光丘					5	B	64	萩工業	5	A				
18	熊毛北	1	B	3	A	10	B	65	徳佐						
19	下松							66	奈古						
20	華陵							67	盲						
21	下松工業							68	聾						
22	徳山	2	A	4	A	6	A	69	岩国養護						
23	徳山北							70	田布施養護						
24	徳山商業							71	徳山養護						
25	徳山工業							72	防府養護						
26	鹿野							73	宇部養護						
27	新南陽	4	B					74	下関養護	3	B				
28	南陽工業					10	A	75	萩養護	5	A	4	A		
29	佐波							76	下関商業	5	B				
30	防府			4	A			77	高水	3	A	4	A		
31	防府西	3	B			9	B	78	柳井学園						
32	防府商業							79	聖光						
33	山口	5	A	4	A	8	B	80	桜ヶ丘						
34	山口中央	5	A	4	A			81	三田尻女子						
35	西京	5	B			9	A	82	多々良学園						
36	山口農業							83	中村女子	5	B	4	A		
37	宇部	4	A					84	野田学園	4	B	3	A		
38	宇部中央	5	A	3	A			85	山口鴻城						
39	宇部西	5	A	4	A	1	A	86	宇部鴻城						
40	宇部商業	5	A					87	宇部女子	5	A	4	A		
41	宇部工業			2	A	2	B	88	美祢中央						
42	小野田					7	A	89	香川	1	B	4	A		
43	小野田工業							90	サビエル						
44	厚狭	5	A	3	A			91	早鞆						
45	美祢							92	下関女短大付属			3	A		
46	大嶺	4	A	2				93	長門						
47	美祢工業					10	A	94	萩光塩学園	5	A	4	A		

※各部門左欄は出品数、
右欄は搬出方法A…当日会場で受け取る
B…学校宛の宅配便を希望する

	A21 B14	A20 B4	A7 B6校
出品作品数	138	83	74
総数		295	
出品校数	35	24	13

第20回県総文祭・優秀作品一覧

美術・工芸部門

高等学校名	学年	氏名	作品名	全国総文
宇部中央高等学校	2	佐藤　恵子	おそら	◎
山口高等学校	2	磯村　香織	瓶のある静物	◎
下関商業高等学校	2	栗林　一未	ジョウビタキ	◎
徳山高等学校	2	木梨 さやか	artless	◎
新南陽高等学校	2	桜井　彩	輝く生命	◎
野田学園高等学校	2	大岡　泰子	自転車のある静物	次(絵画)
西京高等学校	2	森重　匠	All for good smile	次(デザイン)
宇部中央高等学校	2	斉藤　育子	ほおずき	
岩国高等学校	1	川角　まい	夏	
岩陽高等学校	3	河本 真諭美	Nostalgia	
萩高等学校	3	河合　郁子	黒い窓	
宇部商業高等学校	3	藤井　緑	こうしん	
新南陽高等学校	2	田村　佳織	ほどく	
下関商業高等学校	2	藤野 さや香		
宇部女子高等学校	2	久保　伝申	ツムギ	

書道部門

高等学校名	学年	氏名	作品名	全国総文
防府高等学校	2	山本　真弓	臨蘇孝慈墓誌銘	◎
宇部西高等学校	1	植田　陽子	臨雁塔聖教序	◎
下関西高等学校	2	藤田 早紀子	臨本阿弥切	◎
高水高等学校	1	西村　幸雄	臨牛本蕨造像記	◎
熊毛北高等学校	1	坂根　敦子	Material World	
防府高等学校	2	倉岡　徹	臨孫秋生造像記	
山口高等学校	2	福倉 美智子	臨集王聖教序	
宇部中央高等学校	2	河村　共恵	針切臨	
下関西高等学校	2	朝弘　真実	臨木簡	

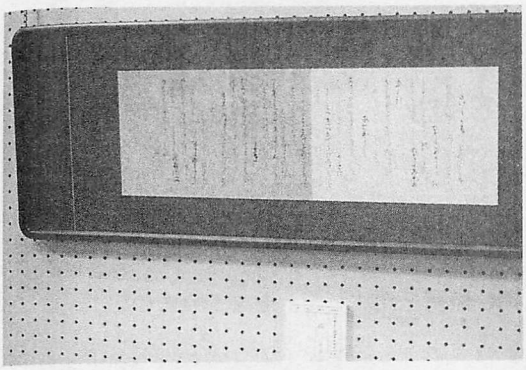
写真部門

高等学校名	学年	氏名	作品名	全国総文
高森高等学校	2	筑波　慈実	二人の釣り人	◎
熊毛北高等学校	2	寺本　久美	お散歩	◎
小野田高等学校	2	太皷　友恵	フクちゃん	◎
徳山高等学校	2	木村 真理子	17才	◎
小野田高等学校	2	松尾　晃	父ちゃんの一休み	◎
南陽工業高等学校	2	佐伯 健太郎	ここはどこ	
防府西高等学校	3	藤井　元輔	TIME－日が傾くころ	
光丘高等学校	3	山田　義裕	作品２	
山口高等学校	3	渋谷　優子	なんか用か?!	
徳山高等学校	2	片山　裕美	静物	
美祢工業高等学校	2	好永　謙介	陽だまり	

※賞は、「優秀賞」と「奨励賞」との二種類。優秀賞以外は奨励賞。
※第23回全国総文（山形県）候補作品は美術工芸５、書道４、写真５。

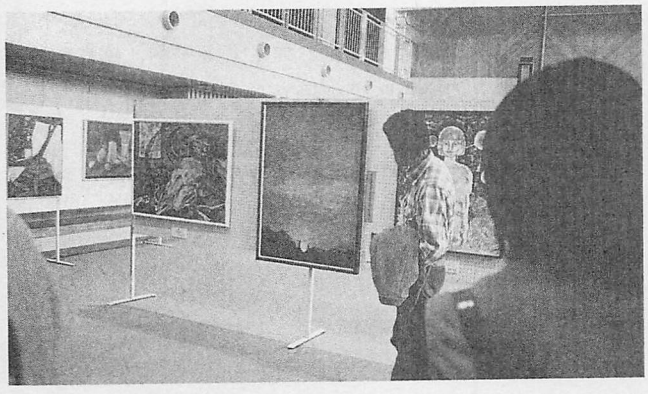
書道部門

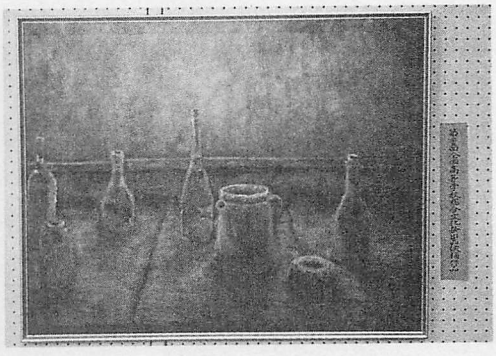
会場：萩市民館

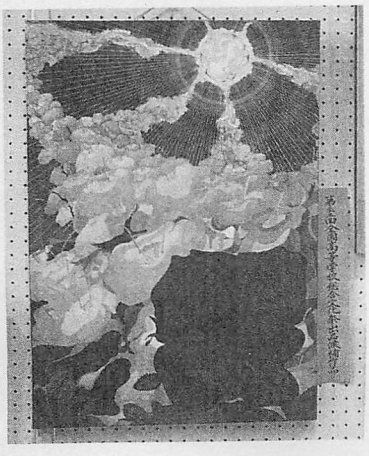


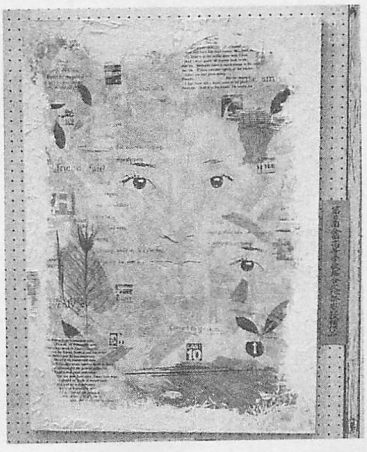
美術・工芸部門

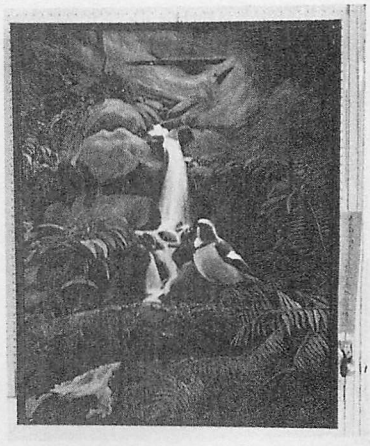
会場：サンライフ萩











写真部門

会場：萩市民館

理事長　藤川明徳
（徳山高等学校教諭）

例年のごとく、写真部は展示会に参加するだけでなく、顧問会議、技術向上、親睦をかねた撮影会、さらに、全国大会出場を決定した展示会の講評を同時に開きました。

大照院では紅葉を期待していたのですが、暖冬のため青いままの紅葉の季節を撮ることとなりました。おびただしい石灯篭を主題にお互いモデルに成り合い、作品作りに励みました。

今回は貸切バスで撮影地を移動しての撮影会を計画しました。天候に恵まれ気持ちの良い会でした。

展示会場の萩市民館で、柴田儀一郎講師による講評会を開きました。徳に、さすが３年生、彼等の作品はすばらしく、講師先生の高評を得ていました。

講師先生の理解しやすい講評で、生徒諸君大いに得るところがあったようで、会が終了しても個人的に質問している姿も多く見られ、実りある会でした。

ここで、指摘を受けたことをまとめました。来年の参考にしてください。

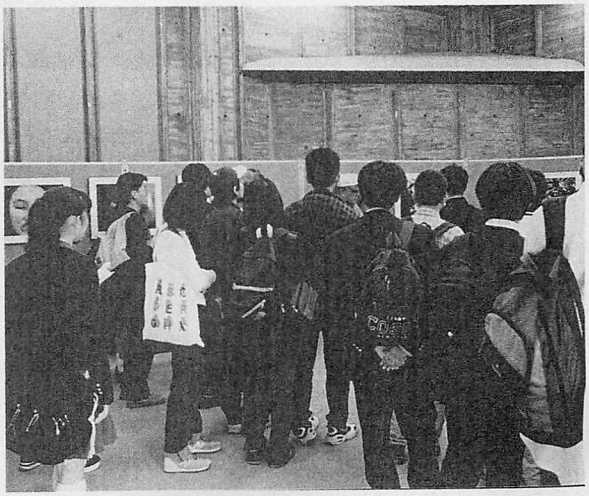
＜要点＞

◎　何を主張したいのかをはっきりと絵に表わす。
◎　暗室作業は丁寧に。
◎　ピントはしっかり。
◎　感性。

上記の中で問題はその人の「感性」でしょう。この感性は一朝一夕には育たないもので、日頃から良い絵、良い先輩の作品に接し磨かなければならないものです。

上３つは努力で何とか出来ますが、感性だけは本人の持ち味で訓練でどうなるものではないので一番難しいでしょうね。

今回の展示で優秀とされた作品を下記に紹介します。



囲碁部門

理事長　井口秀是
（防府高等学校教諭）

平成10年度の第20回山口県高等学校総合文化祭囲碁部門の第10回大会、兼、全国高等学校文化連盟囲碁部門第12回大会の県予選は、平成10年10月25日（日）高文連会長森本紘史校長先生、指導課指導主事中村彰利先生、高文連事務局長中邑立夫先生を迎えて、防府高等学校多目的教室で開催されました。参加校は14校で男子61名女子７名計68名で、終日熱い戦いが続きお互いに健闘をたたえ合いました。競技方法は四面打ち変則リーグ戦（ハンディー戦）で、その中に団体戦も組み入れ、結果は次の通りです。

＜団体戦＞男子　優勝　防府商業高等学校
準優勝　宇部鴻城高等学校
第３位　防府高等学校
女子　優勝　防府高等学校
準優勝　小野田高等学校

＜個人代表決定戦＞
男子　優勝　足達史招　水産高等学校
女子　優勝　今井幸恵　宇部女子高等学校

＜団体代表決定戦＞
男子　優勝　岡田一貴　宇部高等学校
優勝　工藤悠治郎　田部高等学校
女子　優勝　國吉沙織　小野田高等学校

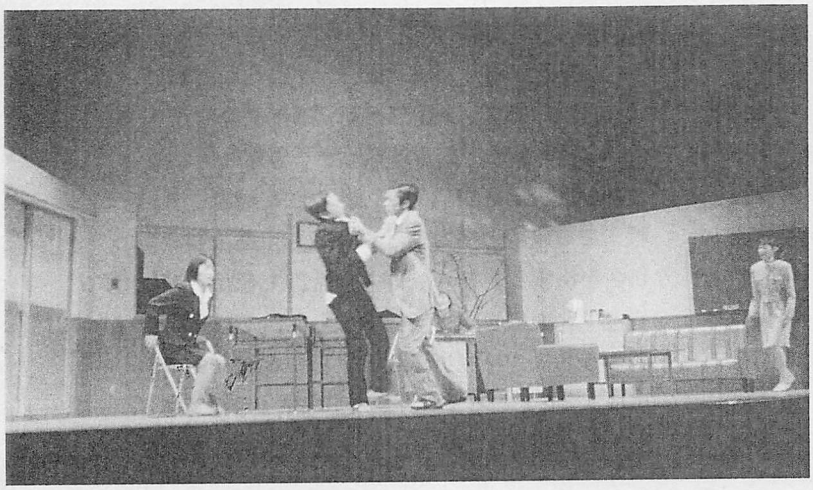
なお、全国高校総文祭の代表決定戦は、３回戦までの成績と棋力を考慮に入れて選抜委員が10名を決定し、第４戦は対局時計も使用して、互選で代表権をかけて行いました。それぞれ優勝の５名は、平成11年８月２日～３日に山形県山形市で行われる全国大会に出場する予定です。今年はかなり強力なメンバーで、どこまで勝ち抜いて行くか非常に興味のある所です。毎日の厳しい鍛練によって棋力の向上をはかってもらいたいものです。

囲碁は、集中力思考力、決断力が瞬時に問われます。21世紀は得体の知れない世紀になるように思われます。囲碁で培った力と、深い人間的な絆を支えにして様々な状況を切り開いて行って下さい。

演劇部門

会場：山口南総合センター

理事長　三藤真人
（厚狭高等学校教諭）



▲岩陽高等学校

▲安下庄高等学校

演劇部門の発表会は、例年どおり８月下旬の４地区の大会で選抜された代表校を、山口南総合センターに招いて開催した。特に主管校の山口中央高校をはじめ、山口・防府地区の生徒諸君と先生方には御心配をいただき感謝している。

本年度は、周防地区２校、宇部地区１校、下関地区２校、山防地区２校という出演だった。めざす中国地区発表会が、県下下関での開催とあって、この大会で選ばれる山口県代表が３校になるという夢もあり、各校とも熱のこもった発表を見せてくれた。

創作脚本で自分たちらしい演技をめざす学校や、台本のセリフを生かしながらドラマ化した学校、音効に工夫をこらした学校と、重厚な、しっかりした舞台装置を据えた学校と、色とりどりかなりの充実を見せた発表会だった。

久方ぶりに県大会に招いた講師の先生は東京中心に脚本家として活躍しておられる町井陽子先生、山口武信先生と審査いただき、また講評もお願いしたが、その内容を要約しておく。

1．台本は筋立てのしっかりした判りやすいもの。自分たちの心に理解できるものを選ぶことと、創作のすすめ。
2．演技は自然であれ。正面を見据えての演説は芝居ではない。音量・声質にも心を。
3．道具・装置はきちんと造る。
必要なもの、不要なものを考える。無意味であってはならない。
4．照明・音効はいずれも演技・セリフを助け支えるもの。凝りすぎたり、こちらが主体にならないように。
5．舞台を広く使うか、狭くするか。作品のねらいによって。

以上、お互いの上演に関しての親切なご指摘。十分に印象にとめることができた。

審査の結果、中国地区への代表の座を獲得したのは、田部高校、西京高校、岩陽高校。

地元校としての堂々たる発表を期待する。

放送部門

会場：ニューメディアプラザ山口

理事長　青木幸子
（山口農業高等学校教諭）

11月８日、ニューメディアプラザ山口を会場に第５回放送部大会が行われました。夏の研修会、全国大会等、他校との交流も活発になったせいか、大会という緊張感とともに、どこかホッとする和やかな雰囲気も感じられる大会でした。本年度は、部員数の減った学校が増えたせいか、個人部門の参加数は昨年より数名減ったものの、作品制作の数がドーンと増え、午後からの作品発表が大いなる盛り上がりをみせました。

アナウンス部門においては、郷土をアッピールする研究が熱心に行われていることがわかる原稿が目白押し。とりわけ本年度は「山口弁」にスポットをあてたものが目立って多かったようでした。語り口も、自然で元気がよく、いきいきとした雰囲気の人が多く、一昔前のうたいあげる式のちょっと…というものがなくなってきたようでした。同じ素材をあつかっても料理の仕方がちがうと、平凡になったり、ハっとするほどおもしろくなったりと、様々です。その違いを学ぼうと、熱心にビデオ撮影に励んだり、録音、メモと、ただなんとなく聞くのでなく、仲間の語りを一生懸命聞く姿があちこちで見られ、とても感動的でした。

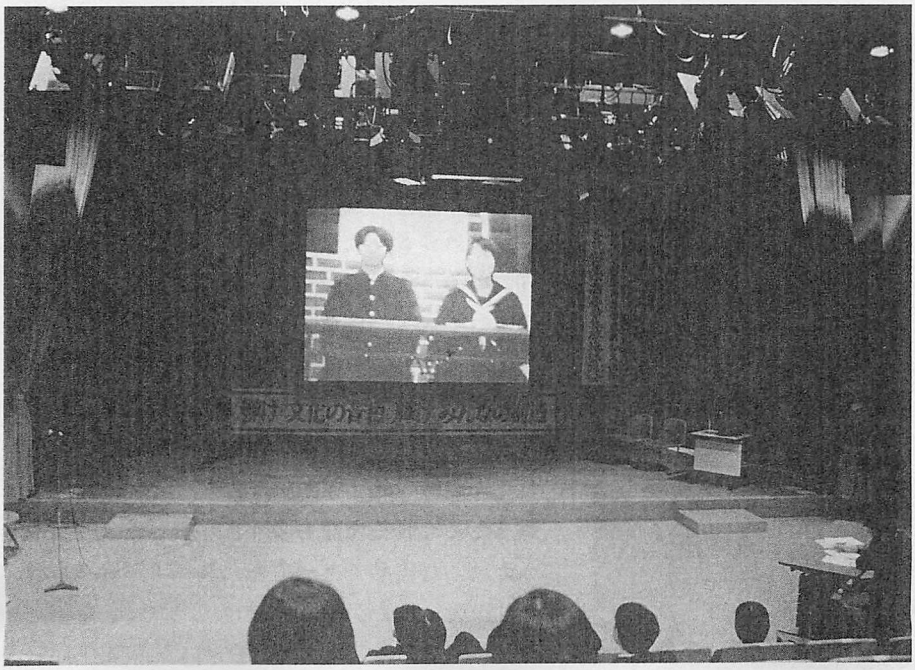
朗読は、いつものように、御三家「高樹のぶ子」「伊集院静」「宇野千代」が人気でしたが、今まで聞いたことのない作品を発掘して、郷土にこんな魅力的作家がいたんだ…と、みなを感動させてくれる場面も多々ありました。今まで人の読んだ作品であっても、読み手が違うと解釈・表現と大きく異なるもののようです。毎年、多くの郷土の作家に出会えるという意味で、こ

の大会は大きな役割を担っていると言えるかも知れません。

朗読・アナウンスを含めて、審査をして下さったＫＲＹの勝正男アナウンサーの講評に一同大感激でした。というのも、今回は参加した一人一人に対してコメントを述べて下さったからなのです。全体に対しての講評も勿論、役に立つものではありますが、「あなたのアナウンスは」「あなたの朗読は」と、一人一人に対して注意と励ましを下さるのですから、これは格別な喜びとなりました。どんなに熱心に聴いて下さったかが分かると同時に、放送に関わる仲間として、後輩達を育てていこうという勝さんの熱い思いに皆が感激したのです。

講評といえば、作品部門に関しても、テレビ制作の竹村さんが一作品ずつ解説、そして「ここをこうしたら、もっと良くなる」のアドヴァイスを下さいました。郷土を素材としながらも、各学校毎に材料もアプローチも異なって、他校の作品を見ることがとっても良い刺激を与えたようです。子としはＡＰ部門、ビデオメッセージ部門ともに、山口弁を素材としたものが代表に選ばれました。その中から、次来年の山形大会に推薦されたのが次の生徒・作品です。

＜アナウンス部門＞山口農業高校・重本和宏、
下松高校・吉田紘子、山口高校・有田敬子
＜朗読部門＞山口高校・古屋英恵、岩国高校・
渡奈保子、下松高校・西田舞子
＜オーディオ　ピクチャー部門＞
山口高校・「のんた」は生きている
＜ビデオメッセージ部門＞
山口農業高校・「山口弁講座～初級編～」



将棋部門

理事長　弘中敏之
（防府商業高等学校教諭）

今年度の将棋部門大会は、例年通り全国大会の県予選を兼ねて、５月31日（日）中国新聞山口支社において開催されました。大会の企画運営も次第にスムーズになっており、高文連会長森本紘史校長先生、指導課主事中村彰利先生、高文連事務局長中邑立夫先生をお迎えしました。参加校は13校で、男子44名の他、宇部高等学校より女子の参加があり終日熱戦が繰り広げられました。競技方法は総平手、個人戦は棋力に応じてA級、B級に分かれて対局が行われました。また、大会の運営上、団体戦・個人戦共すべて持ち時間切れ負け制が採用され、選手にとっては厳しい対局となりました。１チーム３名で構成される団体戦は総当たりリーグ方式で雌雄を決しましたが、参加６チームの実力が接近しており大混戦となりました。

結果は次の通りです。

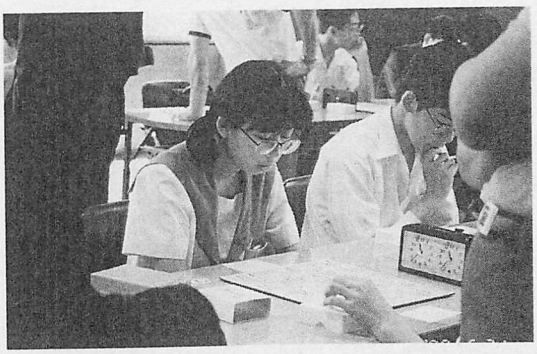
＜団体戦＞・優　勝　宇部高等学校
（浦野浩一、福永義弘、浦野亘弘）
・準優勝　下松高等学校Ｂ
（坂野智史、染矢和彦、西村倫慶）
・第３位　下松高等学校Ａ
（小林健了、国廣雅信、藤田賢太郎）

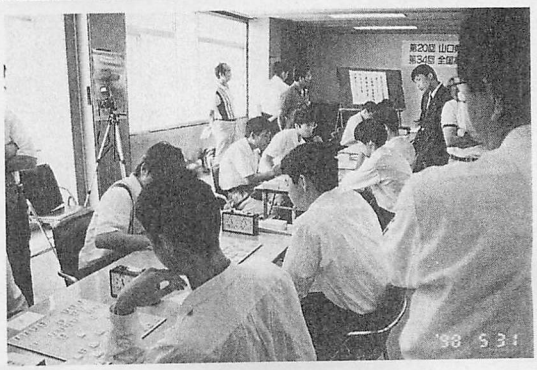
＜個人戦Ａ級＞
・優　勝　金築克祐（厚狭高等学校）
・準優勝　吉国拓馬（徳山高等学校）
・第３位　蓮池秀紀（柳井高等学校）

＜個人戦Ｂ級＞
・優　勝　田中　実（光高等学校）
・準優勝　吉松正憲（宇部高等学校）
・第３位　能勢皓宏（厚狭高等学校）

また、Ｂ級出場の佐竹典子さんは男子生徒に混じり、良く健闘し２勝２敗指し分けの成績を収めました。さらに、団体優勝の宇部高等学校と個人Ａ級優勝の金築克祐君は、鳥取県で開催された全国高等学校総合文化祭将棋部門兼高等学校将棋戦手権大会への出場権を獲得しました。

生徒数の減少や、それに伴う各校での部活動の体制の見直し等、高等学校文化連盟を取り巻く状況が年々厳しくなっていく中において、本年度の大会は、女子生徒の久しぶりの参加や個人戦Ｂ級の新設等、内容・規模共に例年を上回る充実した大会となりました。今後、生徒の文化活動をより一層援助できる運営体制作りを推進する必要性を痛感すると共に、さらに多くの学校から多数の参加を望みます。





第22回 全国高等学校総合文化祭の記録

【大会テーマ】

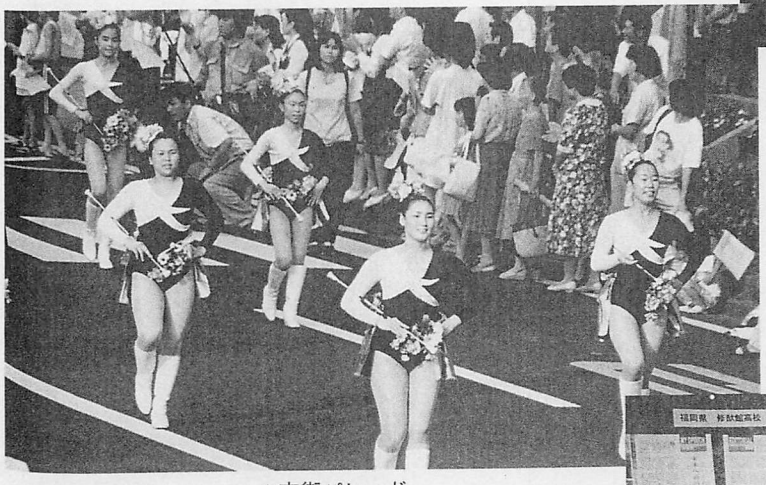
『空高く 創造の鳥 舞い上がれ '98鳥取』

全総文（鳥取大会）参加校一覧

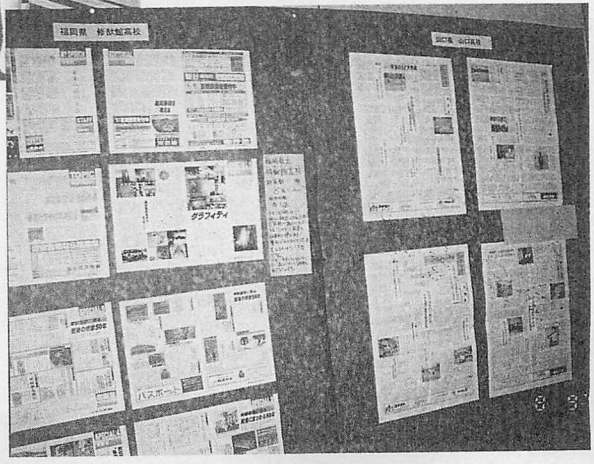
部門	高等学校名	参加生徒	備考（演奏曲目・作品等）
パレード	県鴻城	(41)	マーチングバンドに出演
	宇部女子	(13)	バトントワリングに出演
	三田尻女子	(22)	（４校合同出演）
	早鞆	(3)	
合唱	県立奈古	30	『ジプシーがチーズを食べる』、他
吹奏楽	県立防府商業	50	『スパルタクス』よりスリーダンスエピソード、他
器楽管弦楽	県立防府	72	組曲『惑星』より火星、他
日本音楽	県鴻城	10	合奏『白い渚』野村　正峰作
マーチングバンド	県鴻城	41	Ｏｖｅｒ　Ａｇａｉｎ
	宇部女子	13	『ノートルダムの鐘』
バトントワリング	三田尻女子	22	（３校合同出演）
	早鞆	3	
美術・工芸	県立岩国	1	油彩Ｆ３０号『蓮葉何田田』　河内　尚子　(3)
	県立下松	0	パネルＢ１『オリジナルコンサートポスター』　浅村　久美子(3)
	県立豊浦	1	油彩Ｆ３０号『コンポジション』　秋枝　正訓　(3)
	県立萩	1	油彩Ｆ３０号『今、私』　河合　郁子　(3)
	萩光塩学院	1	デザインＢ１『記憶の再会』　松浦　友香　(3)
書道	県立徳山	2	全紙（縦）臨『相田みつを』の句　徳山高校書道部
	県立下関西	1	半切（横）臨『九成宮醴泉銘』　中村　浩子　(3)
	県立下関第一	1	２×６判　臨『伊都内親王願文』　釜崎　旭史　(2)
	下関女子短大付属	1	篆刻(模刻)　臨『呉昌碩印』　山崎　紀子　(3)
写真	県立徳山	2	単写真　全紙　『あー高校生』　柿本　真宏　(3)
			単写真　全紙　『高校生』　椎木　良憲　(2)
	県立南陽工業	1	単写真　『雨あがり』　佐伯　健太郎(3)
	県立美祢工業	1	組写真　全紙　『漁村』　山岡　隼人　(2)
	県立小野田	1	単写真　全紙　『夏仲間』　菅能　剛　(3)
囲碁	宇部鴻城	1	団体戦(男子１名)　道本　哲也　(3)
	県立防府	1	団体戦(男子１名)　大田　雄一　(2)
	宇部女子	1	個人戦(女子１名)　今井　幸恵　(2)
	県立小野田	1	団体戦(女子１名)　國吉　沙織　(3)
	県立徳山工業	1	個人戦(男子１名)　野村　大樹　(3)
放送	県立岩国	2	民話『厚狭の夏太郎』　佐藤　理恵子(2)
			アナウンス『清流をいつまでも』　田中　絵理　(3)
	県立下松	1	アナウンス『夏の夜の風物詩　吉田　紘子　(2)
	県立萩	2	アナウンス『瑠璃を見た人』　吉屋　知尋　(3)
			アナウンス『晴るる』　吉屋　育恵　(3)
	県立山口農業	1	朗読『海月』　岡田　憲和　(3)
		1	ビデオメッセージ『ぼくは農高のブタ』祭りの紹介『おいでませ山口』
		1	オーディオピクチャー『いただきます』
新聞	県立山口	2	『山高新聞』
将棋	県立宇部	3	個人戦(男子)　浦野　弘(2) 浦野　浩一(2) 福永　義弘(2)
	県立厚狭	1	団体戦(男子)　金築　克祐(3)
小計		274	
合計25校(延べ33校)	参加生徒数 274名		総合開会式における生徒代表１名 山口県立岩国高校　３年　河内　尚子(美術・工芸部門参加生徒)

▲式　典

▲交歓会



▲市街パレード



▲新聞部門大会

器楽・管弦楽部門

会場：米子市公会堂

防府高等学校

２年　　梅村　善則

私たち弦楽部門の半分以上は高等学校に入って初めて楽器を手にします。もちろん腕はまだまだ未熟です。「全国高等学校総合文化祭」という全国のステージに立てると聞いた時、今まで体験したことのないスケールの大きさに初めはとてもとまどいました。しかし、「一生懸命がんばるしかない」と思い直し、練習に練習を重ねました。曲目はホルスト作曲の組曲「惑星」より“火星”と、カール・オルフ作曲の「カルミナ・ブラーナ」の抜粋に決めました。どちらも大曲です。４月からさっそく練習にとりかかりました。初めは弦楽器奏者が少なかったので、その点が心配でしたが、新入生がたくさんはいってくれて、みんな真剣に取り組んでくれました。初めはなかなか感じがつかめませんでしたが、夏にはいるころから、だんだん形が見えてきて、みんなの練習がさらに真剣味を増してきたと思います。

本番当日は他校の演奏を聞くたびに全国のレベルの高さに圧倒されて不安になっていきました。それと同時に緊張ということもあって、みんなとても真剣な目をしていました。いよいよステージに立つ時が来ました。これまでの練習を信じて一つになって演奏することができました。演奏は我ながら満足のいくものでした。演奏終了後の記念写真には、ひとつの大きなことを部員が一致協力してなしとげた満足感が満ちあふれています。また、励ましとなるような暖かい講評をいただいて、自分たちの演奏に多少自信を持つことが出来ました。この感激をこれからの活動に大いに役立てて行きたいと思います。私たちはまだまだ未熟者ですが、大変良い経験をさせていただきました。ありがとうございました。

▲防府高等学校

合唱楽部門

会場：境港市民会館

奈古高等学校

3年　　正宗　利予

私は全国総合文化祭に参加できて本当によかったと思います。この全国総合文化祭は、私にとって3年間合唱について学んだことをすべて出すことのできた大会でした。この全国総合文化祭に向けての練習は予想以上にきびしく、3年生の私たちでも有富先生の練習についていくのには必死でした。でも、いざこの全国総合文化祭に参加してみて、あのきびしい練習に負けることなくやってきて良かったと思いました。そして、有富先生がこの全国総合文化祭に力を入れて私たちを教えてこられたのかわかった気がします。文化祭といっても全国の高校生が集まり、どの歌もすばらしいステージでした。きっと先生は、この中で、はずかしい演奏はできないという気持ちだったのではないのかなと思いました。たしかに他の大会に比べて楽しい部分もあったけど、じつはとてもきびしい大会だったような気がします。

演奏は、十分のできだったとは思わなかったけど、3年間の合唱の中で一番うまく、そして気持ちよく歌えました。歌いおわったあとホールにのこっていた余韻を聞いて、私は3年間合唱をやってきたことに後悔は一つもありませんでした。

いろいろ合唱を通して学ぶことができて本当に良かったです。

▲奈古高等学校

吹奏楽部門

会場：米子コンベンションセンター

防府商業高等学校
吹奏楽部部長　３年　清水　舞

８月７日から『空高く　創造の鳥　舞い上がれ』をテーマに、鳥取で開催された全国高等学校総合文化祭に、私たちは吹奏楽部門の山口県代表校として参加しました。初めて全国という大きな舞台で演奏できるということがとても嬉しいと同時に、県代表としてのプレッシャーも感じていました。

今年は吹奏楽コンクールが例年よりも早く終わっていたため、現メンバーでの演奏は最後であり、３年生にとっては、もしかしたら楽器を演奏する最後の舞台になるかもしれませんでした。本番当日が近ずくにつれて、不安と緊張が高まり、うまく演奏できない焦りで心に余裕がなくなっていた私たちに、指揮者の先生が一言、「コンクールじゃないんだから、もっと楽器を演奏することを楽しもう。」とおっしゃいました。初めて楽器に触れた時、初めて音楽によって一体感を感じられた時、そして何よりも、楽器を演奏することが純粋に好きだという、忘れかけていた最も基本的なことを思い出しました。その一言によって皆の気持ちにも余裕ができたようで、とても良い雰囲気のまま鳥取に出発することができました。

本番当日、米子北校の体育館をお借りして、１時間半ほどリハーサル練習をさせていただきました。地元の高校生がとても温かく迎えてく

▲防府商業高等学校

だされ、本番を控えた私たちはとても励まされました。また、時間が十分にあったので、ゆとりを持って練習することができ、みんなの気持ちもそれぞれの楽器を通して一つになっていきました。

会場の米子コンベンションセンターに着くと、まず会場の大きさに驚かされました。そして、スタッフの高校生の皆さんとは、接するうちに初対面にもかかわらず、吹奏楽をやっているというだけでこんなにも心が通じ合えるのだなと、あらためて感動しました。

音出しの時間は45分間あり、もう一度、一番大切なことをお互い確認し合いました。とにかく、自分たちが楽しんで演奏しようということです。私たちは聞いている人が楽しみ、感動してもらえるような演奏を目指してやってきました。演奏している自分たちが楽しみ、感動できる音楽でなければ、聴いている人には伝わらないはずです。このメンバーでの演奏は最後なので、悔いのないよう思いきり楽しもうとの思いでステージに上がりました。

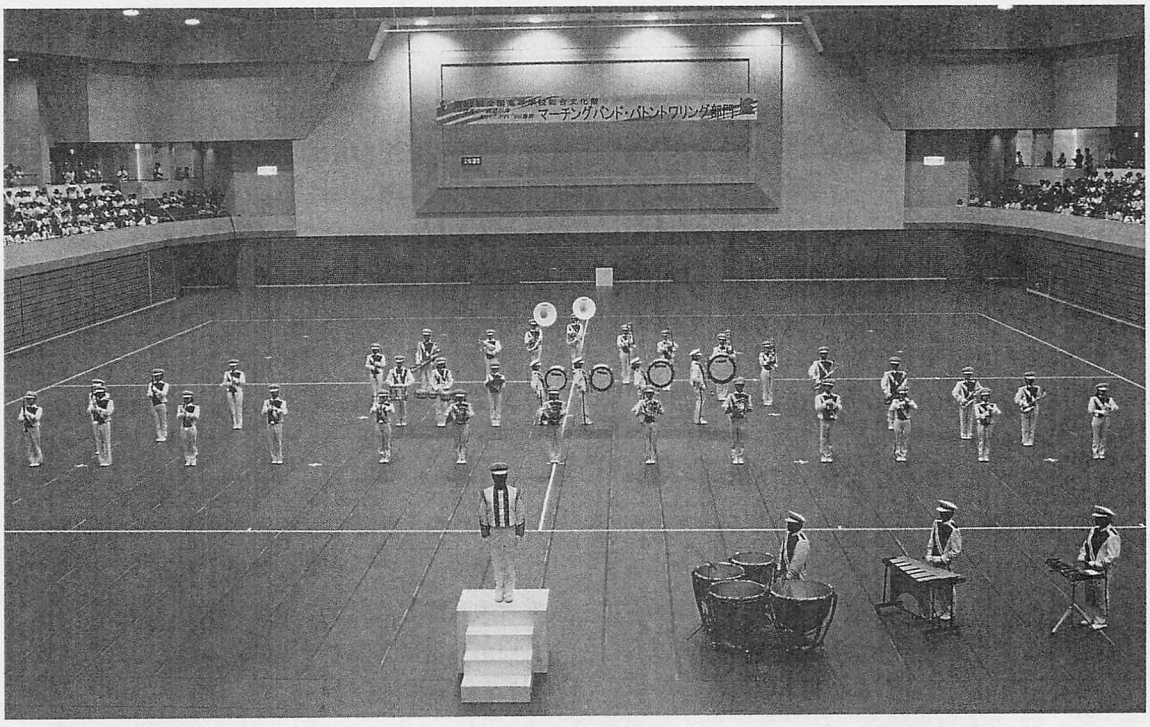
そして２曲目のティコティコという曲では、スタンドプレイをしたり、楽しみながら笑顔で演奏することができ、大きな拍手をいただきました。

賞にこだわらず、純粋に演奏を楽しめたこの全総文での経験は、私たちにとって大きな想い出と共に、今後の糧ともなりました。とりわけ三年生にとっては、引退をこのステージでむかえられたことをとても光栄に思います。

最後に、この全総文に参加するに当たって、地元の高校生スタッフの皆さんや、いろいろな方面からの御支援や御協力をいただいたことに対し心から感謝しています。

マーチングバンド・バトントワリング部門

会場：鳥取県民体育館



▲県鴻城高等学校

第22回全国高校総合文化祭は８月７日（金）～８月９日（日）の３日間鳥取県で開催されました。

８月７日には17：00~18：30まで鳥取県庁前から鳥取県物産観光センター前までの1.1㎞をパレードを行いました。山口県鴻城高等学校の演奏で、山口県合同チームのバトントワリング（早鞆高等学校・宇部女子高等学校・三田尻女子高等学校の３校）が演技を行いました。沿道では県教委の先生方の応援を受け、すばらしい演奏・演技を披露することができました。

８月９日には会場を鳥取県民体育館に移し、部門の発表会が行われました。山口県鴻城高等学校のマーチングバンドが「ＯＶＥＲ・ＡＧＡＩＮ」の曲で、またバトントワリングの山口県合同チームの早鞆、宇部女子、三田尻女子の３高校が「ノートルダムの鐘」の曲にのって、華麗な演技で会場を沸かせました。

早鞆高等学校　　バトン部

全総文祭にはパレード部門だけの参加でしたが、良い経験になりました。早鞆高校からの参加は少なかったため、すこし緊張しましたが、演技の内容としては反省することが多くありました。大勢の観客の中で演技をしたことは私達にとって大変良い経験となりました。また、全国各地よりの代表校の演技を観賞できたことも良い経験となりました。

宇部女子高等学校　　バトン部

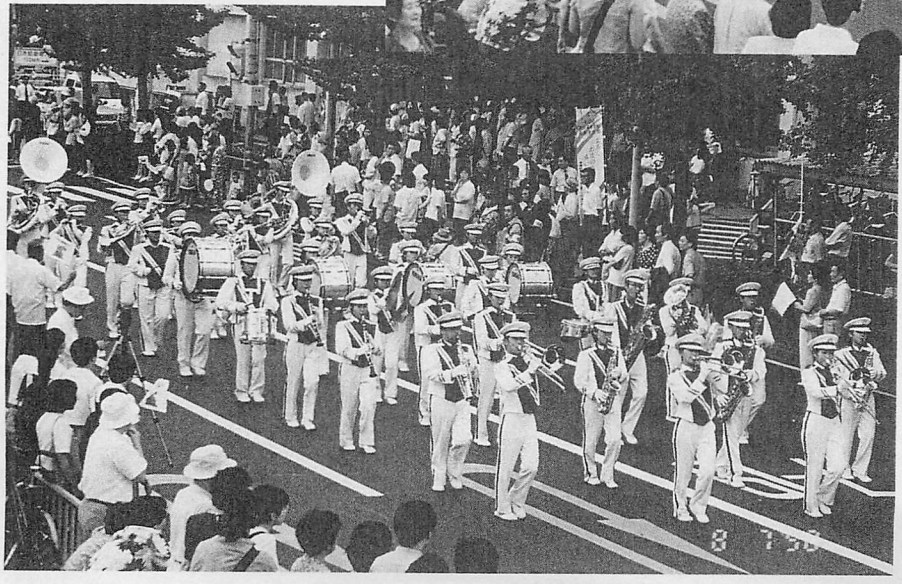
３校合同チームで出場しました。当然３校が合同で練習する時間は少なく、なかなか息が合わなかった。その上バトン演技も加わり必要以上に苦労しました。しかしいざ本番。私たちの練習のかいがあって息もぴったり、すばらしい演技ができました。何か月も練習を積み重ねてくる間にも、辛い時は投げ出したいときもありましたが、今は最後まで続けて良かったと思っています。

▲山口県合同チーム

▲（県教育指導課長より）激励の会

市中パレード▶
（山口県合同チーム）

▼県鴻城高等学校



日本音楽部門

会場：米子市公会堂

藤井紀代子
（山口県鴻城高等学校教諭）

本校箏曲部が憧れの全国大会にできることになり、日頃から明るく楽しい仲のよい10人の部員は一層高揚し、ワクワクした気分で米子市の会場に入りました。ところが、目の前にはリハーサルとはいえ、本番さながらの熱気溢れる素晴しい演奏にただただ見とれ聴き惚れるばかりで、思わず全身に不安と緊張が走りました。全国のレベルの高さに圧倒される中で、舞台にあがった10人の心は一つになり熱く一生懸命に演奏してくれました。顧問の私が一番心配し、またホットしたかもしれません。この全国大会に参加できたことは、親切にお世話下さった鳥取県の教職員や生徒の皆さんとの思い出と共に、私達にとって大変よい勉強になり感謝しています。

山口県鴻城高等学校
３年　　田中　　舞

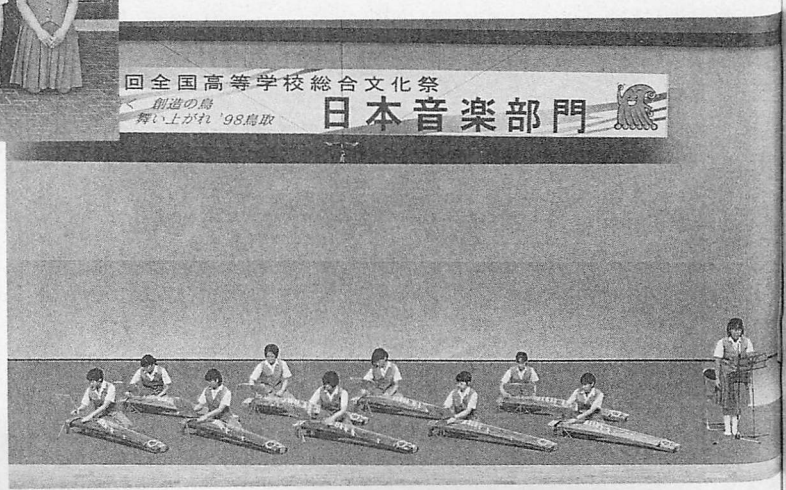
８月の８、９日に開催された全国高等学校総合文化祭・日本音楽部門に私たち鴻城高校箏曲部は参加させていただきました。部員は１、２、３年の10名と少なく、高校に入ってから琴を始めた人がほとんどです。そんな私たちが、山口県代表として本当に出場して良いものか、最初はとても不安でした。しかし、せっかくのチャンス、楽しい思い出を作ろうと、明るるい気持ちで鳥取に向かいました。

当日、他県の演奏があまりにも素晴しいことに驚き、本番直前は緊張しすぎて頭の中が真っ白になっていました。でも、ステージでは落ち着いて練習の成果を出すことができ、部員一同満足のいく演奏ができました。

今回の体験で、全国のレベルがすごく高いことを知り、また、琴の持つ表現力の豊かさ、すばらしさも改めて感じることができました。

全国の高校生と交流ができたことも楽しい思い出となり嬉しく思っています。貴重な機会を与えていただき、ありがとうございました。

▲
県鴻城高等学校箏曲部 ▶



美術・工芸部門

会場：鳥取県立博物館

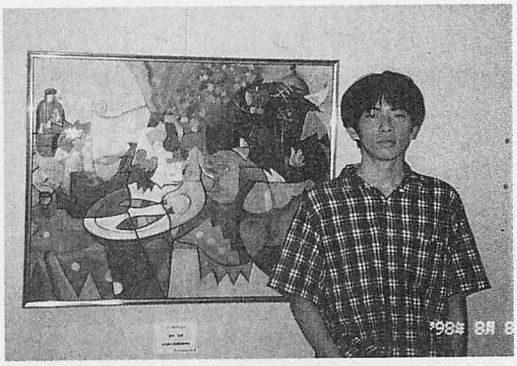
豊浦高等学校

3年　秋枝　正訓

高２の時、最初にキャンパスに描いていた絵が気に入らなくて、それを消す口実を作るために描いた絵が全総文に出品されるとは思わなかったので、初めは実感がわかなかった。でも鳥取駅についた時、黄色いＴシャツを着た学生達がパンフレットなどを配ったりしていたり、至る所に大きな垂れ幕がかかっているのを見ると、思っていた以上のスケールの大きさに驚くとともに、この全総文に参加できることを、とても光栄に思った。

２日目の美術工芸部門の開会式は味気なく、交流会も面白そうでなかったのですっぽかして、展示を見に行き、その後名所を観光した。観光では鳥取砂丘が印象的だった。ただ、砂があるだけだと思っていたが、丘の上からの景色は良く、潮風はとても気持ちよかった。

２日目と３日目の講評会の時、出品されているたくさんの絵や工芸品を見たが、ほとんどが個性的で飽きることがなかった。とくに油絵は、重くみせたり軽くみせたり、構成を面白くしてみせたり、塗り方を工夫してみたりと、一つ一つの作品が個々の表現力を持っていて、見ていて楽しかったし、また新鮮でとても勉強になった。デザインでは、プロが描いたような凄いものがあったし、細かいところまで丁寧に塗って、思わず顔を近づけてジックリ見たくなるようなものがあった。それと環境問題や沖縄の米軍基地問題を訴えるような、不満をぶっつけるポスターが多く、考えさせられる一面があった。工芸では油絵やデザインと違い立体表現なので別



の魅力があった。また、国際交流展出品作品は水墨画や版画などから日本にはない感性を学んだ気がする。講評はじっくり聞きたかったのに、テレビが小さかったり、音量が小さかったりして、何を言っているのかさっぱりわからなかったのが残念だった。

全総文は作品に全国各地の地域性が出ているところもあって面白かった。また、多くの作品を観ることで、モノを観る力が一段とアップしたと思う。できれば他の部門をゆっくり観たかったが、それができなくてとても残念だった。しかし、高校一度きりのこの経験はとてもすばらしいものだったと思う。

萩高等学校

3年　　河合　郁子

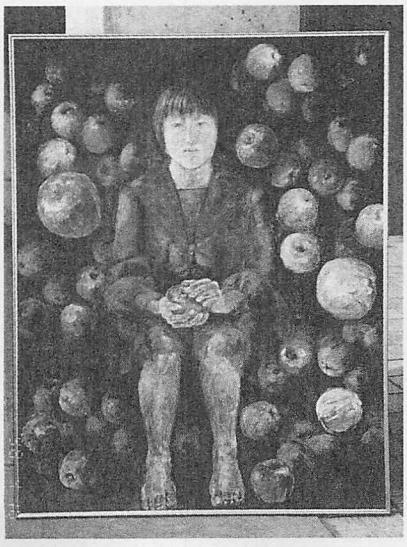
高校最後の夏休み、受験という試練を控えて不安や緊張が、何をするにもつきまとっているのでした。そんな夏だから、当然鳥取にもこの憂鬱な空気のまま訪れたのです。電車に揺られること６時間、窓ガラスの向こうには見慣れた日本海が続いていました。

しかし、そんな憂鬱な気分も、宿泊地で知り合

った友達と過ごす時には、不思議にもサッパリ忘れて旅先の自由な空気を味わうことができました。それと、一人一人が自分のやりたいこと、目指すものを大事にしているようで、私にも自然と元気がわいてくるというか、とにかく良い刺激になりました。

全国高校総合文化祭に参加するのは初めてでしたが、鳥取県の高校生達がこの日のために貴重な時間をさいて、いろいろな準備をされたのだろうと思いました。本当に素晴しいと思いました。しかし、交流会や作品講評会の時などなんとなく疎外感を感じてしまう場面もありました。交流会では、もっと全国的規模の感じられるものを創りたかったし、文化祭に参加しながら、文化祭を構成している一員なんだという一体感を感じることは残念ながらできませんでした。講評会については、どんなことでもいいので、本当に一言だけでも自分の作品にふれてほしかったと思います。

砂丘へ行ったこと、これが結局一番グッときました。砂丘を遠くから眺めた時は、大規模な砂遊びといった感じで、おおげさかもしれませんが、そう思っていたのです。でも実際歩いてみるとウキウキしてしかたなかったです。人に踏まれてできた凸凹さえも、なめらかで美しい影をたたえていました。乾いた丘の向こう側にまたあの日本海を観た時、その存在に驚かされました。初めは、砂が入るのが嫌で、脱いだ靴と靴下だけど、足の裏にジンとくる熱が気持ち良くて裸足で歩き回っていました。



ふと、辺りに観光客が少なくなった所で、足跡にまぎれてわからなかった風紋が残っているのに気がついた時は、自然の造り出す形の美しさにしばらくボンヤリしてしまいました。

鳥取で過ごした３日間の内で、一番、砂丘が心に残りました。しばらく砂の上へ座り込んでいると、確かに絵を描きたい気分になっていました。次にここへ来る時は、月が見える夜に歩きたいと思いました。

総合文化祭では、これから自分がどう表現していくかや、自分の絵に対する気持ちの再確認ができ、とてもいい経験になりました。これからも自分の絵を描き続けたいです。

萩光塩学院高等学校
３年　　松浦　友香

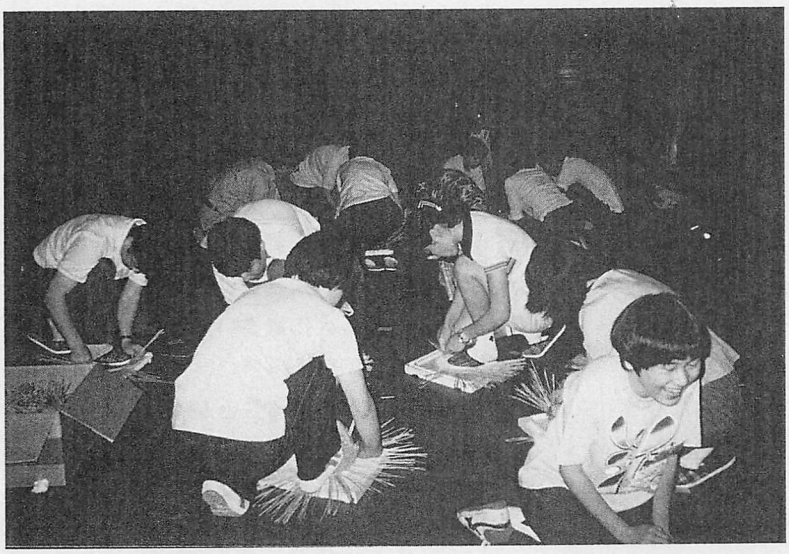
『空高く　創造の鳥　舞い上がれ　'98鳥取』のテーマの下、第22回全国高等学校総合文化祭が開催されました。その大イベントの美術・工芸部門に、今回私は参加しました。

８月７日、県民文化会館で総合開会式が開かれ、日本全国さらにはカナダ、中華人民共和国、大韓民国、インドネシア共和国の四か国から約14,200人余りの高校生がこの地に集いました。式は盛大を極め、各国の民族舞踊や、鳥取の郷土芸能、コーラス、ダンスなど、数々の催しで私達を魅了してくれました。その後の市内パレードでは、華やかな衣装を身に着けた各県の高校生達がパフォーマンスを披露し、統一感あふれる美しいものでした。

同日の午前中は、産業体育館で交流会が行われました。地元の高校生の指導の下、流し雛を制作しました。“流し雛”というのは、一年間の幸せを願い、男女一対の紙雛を桟俵にのせ災厄を託して川に流すという、鳥取の伝統的な行事の一つなのだそうです。初めて藁を使っての

作業は、なかなか思いどうりにはいきませんが他県の高校生との交流の輪が広がり、楽しさと、満足感を味わいました。

８日は、県立博物館で美術・工芸の展示を鑑賞し、講評をしていただきました。全国から合計385点の作品が集まり、皆力作揃いで制作者の熱い思いや意気込みが伝わってきました。私の作品もありましたが、この大会に出品すること



が決まったときは、まさかと思い信じられない気持ちと、言葉では言い表せないような喜びで胸が一杯だったのを今でも覚えています。鳥取大会の二日間は、私にとってたいへん貴重な体験となり、良い思い出となりました。

来年の開催地は山形県だそうです。後輩の皆さんの活躍を見守り応援したいと思います。

岩国高等学校

３年　　河内　尚子

『空高く　創造の鳥　舞い上がれ　98鳥取』のテーマのもと、鳥取県で全国高等学校総合文化祭が開催され、私はその美術・工芸部門に参加しました。私にとって全国大会への出場は初めてのことで、どのようなことがこれからおこなわれるのかと期待で胸がいっぱいでした。

まず私は、総合開会式に県代表として出席し、目の前でまるで自分と同じ高校生が行っているとは思えない演出や演奏や歌、そして外国の人達の演技を見ることができ、その迫力に圧倒されとても感動しました。改めて高校生の文化の祭典といわれるこの大会のすごさを実感させられたように思いました。

美術・工芸部門の展示を見たときも、自分の作品とはまるでレベルの違う作品を目の前にし唯々驚かされ、何度も立ち止まり見入ってしまいました。それだけに、自分の絵の未熟さが恥ずかしくてしかたがありませんでた。とても落ち込んでしまった私でが、たくさんの友達が出来たことで、そんな沈んだ気持ちも晴らすことができました。

私の泊まったホテルは、美術・工芸部門の人達ばかりが泊まっていて、初めて会った人ばかりだったけれど、みんな同じ事に興味を持っているだけに話が合い、とても楽しく過ごすことができました。

この鳥取での３日間で多くのことを見聞きすることができ、自分に必要ないろいろなことを吸収し、少しだけかもしれませんが、自分を高めることができたように思います。こんな素晴しい大会に参加できたことは、高校生活の中でも忘れられない思い出です。これから少しでも、ここで経験したことを生かしていきたいと思います。

書道部門

会場：倉吉博物館

『書道の認識広がった鳥取大会』

下関女子短期大学付属高校

２年　　山崎　紀子

高校２年に書道部に入部し、筆を持つのが４年ぶりのことでした。中学では運動部に在籍し、書道とは縁のない生活を送っていました。

入部後、まもなく顧問の先生から篆刻を勧められ、以前から興味のあった篆刻作品を出品し県総合文化祭で最優秀賞を受賞し、全高総文に出品が内定した時は信じられませんでした。

このような中、今年８月鳥取大会に参加することになり、「私なんかが出ていいものだろうか…」とそんな不安もありましたが、全国から選ばれた人々と作品に胸を躍らせていました。

大会に参加して、予想通りというより予想以上に作品は素晴しく、自分の作品が同じ会場に陳列されていることが信じられず、体がすくみました。躍動感あふれるもの、繊細なもの、柔らかいもの、作品の一つ一つから個性を感じ、胸の高鳴りを覚えました。全国から選ばれた作品を見ることで、書道に対する認識が広がったような気がしました。他の県の友達もでき、大会参加は貴重な思い出とさせていただきました。

おわりに大会準備に力を注いで下さった鳥取の皆さんに感謝しています。有難うございました。

▲全国高総文祭書道部門交流会

下関西高等学校

３年　　中村　浩子

「九成宮醴泉銘」を書こうと決め、半紙を畳の上に広げた時、その大きさに圧倒された。今までに一畳分もある大作は書いたことがなかったからだ。練習していくうちに、こんなに大きな紙に思う存分字が書けることが楽しくなってきた。字の形だけでなく全体のバランスにも気を配り全神経を集中させて書いた。字を書いていてこんなに充実した気分になったのは初めてだった。だから鳥取で額に入った自分の作品を見た時とても嬉しかったし、講評会で誉めて頂いた事は大きな自信となった。

全国から集まった人全員で「蘭亭序」を書いたが、皆ひとたび筆を持つと真剣な表情に変わる。一人で静かに字を書くのも趣があるが、皆で一つのものを作り上げるのも又楽しかった。

全総文に参加して今まで知らなかった書道の面白さを発見できた。高校生活最後の貴重な体験になったと思う。

徳山高等学校

３年　　藤井　裕子

書く人の心の動きがさまざまな形で表れる書。この全国総文祭では表情豊かな作品をたくさん見ることができた。力強く躍動感あるものや繊細なもの、変わった型のもの。今までに目にし

たことのないような作品も多くて、よい意味で色々と影響を受けた。また、鳥取県内高校生の合同作品はチームワークのよさが表れていて、総文祭に込めた思いが一つになってあふれているような気がした。

「蘭亭序」合作揮毫では、他の人の作品を眺めるだけでは得られない、力を合わせて大作を完成させた喜びとその大きさを感じた。それはその時、その場所だからこそ得られるものだったに違いありません。

まさに、たくさんの創造の鳥が空高く舞い上がった総文祭だったと思う。この舞い上がった鳥達はこれからも大空を飛び続けるだろう。

下関第一高等学校
2年　釜﨑　旭史

今年の８月７日～11日にかけて鳥取県の倉吉市で第22回全国高等学校総合文化祭が行われました。僕はその中の書道部門に参加しました。ても良い経験になり大切な思いでの一つになりました。

会場では生徒一人一人の作品が展示されていました。全国各県から選ばれた人達の作品が集まっているのでそれはすばらしかったです。今まで見たことのない様な書体や、濃い墨薄い墨を使い分けて表現している書など、味わいの違った様々な作品が展示されていました。僕自身も今回出品した作品を書きあげるまでに、何枚も自分なりに納得できるまで書きました。今回参加できたことが自分自身にとってとてもラッキーなことだったし、勉強にもなり、今まで書道を続けてきて良かったと思いました。

また今回のことが励みになってこれからも色々な書体にチャレンジしていこうと思います。とても良い経験になり大切な思いでの一つになりました。

第22回全国総文祭の記録

写真部門

会場：米子市美術館

徳山高等学校
3年　椎木　良憲

僕らは、今回幸運にも全国高等学校総合文化祭に自分たちの作品が出展させてもらえることになった。

開催地の鳥取県米子市までの車内はいろいろな話で盛り上がった。特撮、アニメ、など趣味の話から、学校行事、文化祭や運動会のことなど、旅の途中では他愛ない会話でも妙に盛り上がる。途中寄った小さな飲食店では、「寿司とラーメンのセット」という何とも言えない取り合わせの食事をした。僕らは予定よりもずいぶん早く着いた。米子市の天候は最悪で、空は真っ黒に曇り激しい雨が降っていた。

会場に行くのは四時の予定だったので、僕らはそれまでの間、暇つぶしを兼ねて境港市の「水

木しげるロード」を見に行くことにした。そこで一時間程度過ごした。

米子市美術館の中は、外のじめじめした雰囲気と打って変わって、静かで落ち着いた空気が流れていた。全国から集まった作品は四つのフロアに分けられて展示されていた。

白い壁に掛けられたたくさんの作品は、どれも撮った人の意志が伝わってくるような印象的な作品ばかりだった。これらが自分と同年代の人たちが撮った作品なのかと思うと感心してしまう。自分だったら気がつかないような被写体の表情や視点の写真がたくさんあって刺激になったし、そういうものに触れることがこの大会の意義だと思う。

ぼくらは一時間くらいで美術館を後にして、今夜泊まるペンションに向かうことにした。

その夜はとても静かで僕らは明日にそなえて早めに眠りについた。

次の日僕らは撮影会のため大山へ向かった。行きの途中、阿弥陀堂に寄ったりした。大山で大会参加者のグループに合流し撮影会は始まった。みんな自由に動き回って写真を撮るので、撮影会中は、とにかくはぐれないように気をつけた。撮影会場でお世話になった美祢工業高校の先生はおもしろいカメラをもっていて、色々楽しい話も聞かせてもらった。

大会参加者のみんなはカメラを持つと目の奥に何かが宿ったようになる。小さな一瞬を見逃すまいと、とにかくすごい緊張感なのである。このくらいの真剣さがないと米子市美術館で見たような写真は撮れないのだろうか。あらためて、自分がこの大会に参加させてもらえた大切さを知った時間であった。

また、最後に行った植田正治写真美術館もすばらしい場所だった。一枚一枚の写真が持つ強い説得力と、それらが集まり一つのフロアの中に作り出す写真の内の世界に触れた時、心に強く訴えてくるものを感じた。建物自体も、すごくおもしろい建物で、小さな所にまでアイデアがそそぎ込まれた、これだけで一つの芸術作品だと思った。

今回の大会に参加したことは、自分にとってとても刺激的な体験だった。この二日間で感じたこと、学んだことが自分の未来にどんなところで役立つかは分からないが、自分がこれから写真やその他のものに触れていく中で、大きなプラスになったのは間違いない。

囲碁部門

会場：倉吉体育文化会館

理事長　井口秀是
（防府高等学校教諭）

第22回全国高校総文祭囲碁部門第11回大会は平成10年８月10日（月）、11日（火）鳥取県倉吉市倉吉体育文化会館で開催されました。団体戦は各都道府県から選抜された男子2名、女子１名のチーム編成で41チーム、個人戦は各都道府県から男女各１名ずつで、男子41名、女子37名合計201名の参加がありました。

初日は開会式後４回戦を行い、２日目は残り２回戦を行う、２日間の６回戦です。男女個人戦、団体戦ともに同時間に並行して行われ、オール互選のスイス方式という競技方法で行われました。

山口県からは、個人戦に野村大樹（徳山工業高校）、今井幸恵（宇部女子高校）、団体戦に大田雄一（防府高校）、道本哲也（宇部鴻城高校）、國吉紗織（小野田高校）の５名が参加しました。

戦いは勝者同士、敗者同士を組み合わすのでまさに星のつぶし合いで、しかも時計を使用しますので非常に厳しいものがありました。そこには気迫と充実感が交錯し、局後の妥協のない感想戦はすがすがしいものでした。

戦績は次の通りです。

＜個人戦＞

野村　大樹（初段格）　２勝４敗　第35位

今井　幸恵（２級）　３勝３敗　第20位

＜団体戦＞

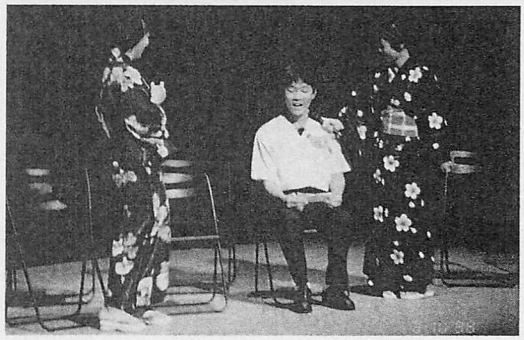
大田　雄一（１級）
道本　哲也（８級）　３勝３敗　第21位
國吉　紗織（５級）

なお、野村大樹君の２勝は立派なものです。自分より上位者との戦いの中で精神力の強さの光った２勝です。団体戦の３勝も特筆もので、國吉さんの絶妙の一手、道本君の奮戦、大田君の気力による打ち回しがうまくかみ合ました。お互いの気持ちが一体となって勝利をもぎとった感じです。

最後に、高校の選択科目に囲碁・将棋が取り入れられました。沖縄県立真和志高校で、来年度から２単位で３年間を通じて選択可能ということです。囲碁は自分で思考し、結論を出し、それに責任を持つ故に、人間としての生きる力がつきます。世代を越えた人々との対話を通して日本のあらゆる創造に参加して行って下さい。

放送部門

会場：米子市文化ホール



岩国高等学校

２年　佐藤恵理子

今回の全国大会は鳥取県の米子で行われると聞いた時、私は全国大会に出場するという実感がありませんでした。というのも山口県に鳥取県は大変近かったからです。米子駅に着くとまず目に入ってきたのが大きなお米を形取ったモニュメントでした。街全体がすっきりしていてどこか私の住む町岩国に似た印象をうけました。さてさて、ここで私はこんな暑い中、あふれんばかりの笑顔で迎えてくれる地元の高校生の皆さんに出会いました。その生徒さんたちは「ようこそ米子へ。長旅おつかれ様でした」と言っているかのように会釈していました。私はとても嬉しく思いました。

大会の会場は米子ホールで行われたのですが私はここに着てやっと全国の人たちが集まってきていることを実感しました。ビデオ・オーディオ部門では、その土地の方言の由来、特長、そして民謡の紹介などが興味深かったです。

私たち朗読・アナウンス部門の練習室はすさまじいものでした。みんな壁に向かって片手で下っ腹を押さえ、「あー」だの「おー」だのとできるかぎりの声を出して発声練習をしていました。私はまずこの気魄につぶされそうになってしまいました。この部屋の中にいると、何か不安で不安で仕方なくなってしまいました。その時先生が、「これはフェスティバルなんだから楽しく読めばいいのよ」とおっしゃっていたのを思い出して、気持ちを落ち着かせて本番に向かいました。山口県は厚狭の民話、三年寝太郎を紹介しました。私たちの後輩が和紙に一生懸命書いてくれた大きな絵を使って紙芝居風に発表しました。どぎまぎしながらもなんとか成功することができた様です。（私は緊張していて何も考えられず、ただただボーっと立っていました）さて今度こそ私の番です。でも本番のことは全くと言っていいほど覚えていません。やっぱり、よほど緊張していたんですね（笑）情けない情けない！私は朗読だったんですけど、やっぱり上手な人はスゴイ！読んでいる内容が本当に心の中まで伝わってくるんです。読む技術ももちろん大切ですが、やっぱり一番大切なことは、「これをみんなに伝えたい、分かってほしい！」という気持ちなんだなあとつくづく思いました。審査して下さったのは声優の肝付兼太さん（ジャジャマルの声）もそのようなことをおっしゃっていました。　この大会を通して放送部として、放送部としてがんばっている全国の皆さんを知ることができてとても良かったです。まだまだ練習不足の私も、いつか人の心にしみいるような、すてきな読みができるようにがんばります。

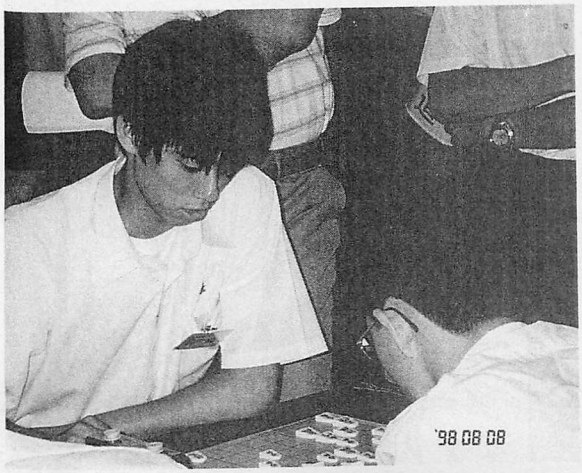
将棋部門

会場：倉吉体育文化会館

常任理事　尾崎明弘
（宇部高等学校教諭）

第22回全国高校総文祭将棋部門兼第34回全国高等学校将棋選手権大会が、８月８・９日の２日間、鳥取県倉吉市の体育文化会館で開かれました。真夏の猛暑の中、男子団体43チーム、女子団体23チーム、男子個人44人、女子個人65人の計307人が、体育館のフロアーで一斉に対局する様子は、ちょっとした壮観でした。対局する高校生の表情は真剣そのもの、次第に熱気を帯びて最後には耳たぶまで真っ赤になるほどで、頭脳のゲームとはいえ、格闘技と寸分違わないような印象を受けました。ここに見る高校生は、日頃よく言われるような無気力・無感動な生徒は皆無、本当にすがすがしい若者たちでした。

本県の選手は、期待された男子個人戦の金築克祐君（厚狭高校）が、２回戦で元中学チャンピオンの愛媛県の選手に惜敗、男子団体戦では宇部高校が、１回戦を突破する健闘を見せたものの２回戦で敗退、ともに残念な結果に終わりました。しかし、山口県の将棋のレベルは高く、来年度以降も大いに期待できるとおもいます。



また、これまで本県から女子の部には参加していませんが、女子の参加県は全都道府県の半数を超えています。山口県大会でも男子を下して勝利を挙げる女子選手が現われており、そろそろ本県から女子の代表を送り込んでもよい時期がきているのではないかと思われます。

参加した生徒も試合だけでなく、宿舎での他県生との交流や、プロ棋士との指導対局などたくさんの思い出を土産にすることが出来、本当に充実した２日間でした。

宇部高等学校
２年　福永　義弘

僕たちは、５月に行われた山口県の予選大会で全国大会の団体戦の切符を手に入れることができました。２位や３位のチームとは接戦で、わずかの差で優勝が決まったときは本当に感激しました。

今年の全国大会は「空高く創造の鳥舞い上がれ」のスローガンのもと、鳥取県倉吉市で行われました将棋だけでなく、高文連のさまざまな部門が行われており、そのスケールの大きさに圧倒されました。

試合では、１回戦では大将の浦野亘弘君が秒読みとなってから延々１時間近くも指し続けた熱戦を制し、僕も得意戦法が決まって、２－１で富山高校に勝利しました。２回戦では残念ながら沖縄県の中部農林高校に１－２で惜敗しましたが、全国大会で１勝を挙げられたことは大きな自信になりました。

また、宿舎では島根県や青森県の人と同室になり、夜を徹して将棋を指したり、学校の話を

したりして、交流を深め合いました。初対面であっても、将棋という共通語があるということは、こんなにもすぐ打ち解けることができるものなのかと思うくらい楽しい時間でした。

このほかにも、会場でプロ棋士と対局することができたりと、本当にすばらしい経験をすることができました。全国大会という高いレベルの世界を知ったことにより、僕自身、これからの人生に対する気持ちの持ち方が変わってきたような気がします。来年も絶対に全国大会に出場したいと思います。そのために、さらに将棋の技術を磨いて頑張りたいと思います。

山口県高等学校文化連盟自主事業実施校一覧

番号	学校＼事業	ピアノ	マリンバ	フルート	胡弓 トランペット	尺八と箏 オペレッタ	交響楽団	演劇	金管合奏
1	安下庄	63				平7	平4平10		
2	久賀	63					平3	平10	
3	岩国								平1
4	岩陽						※		平1
5	岩国商業			平3				62	
6	岩国工業						平2	平6平8	
7	坂上			63	※		平5	平3	
8	広瀬			63					
9	高森						平2		
10	柳井						平7	※	
11	柳井商業						※		
12	柳井工業							平1平4※	
13	熊毛南	63					平6		
14	田布施農業						平3	平5	
15	田布施工業								
16	光	63					平8		
17	光丘						平8※		
18	熊毛北						平2	63平7	
19	下松	63				平7			
20	華陵	63					平8	平1	
21	下松工業						平1		
22	徳山		定平4		定平10	定平8			
23	徳山北		63				平4※	平8	
24	徳山商業		平5	63				平3	
25	徳山工業							平4平7	平1
26	鹿野		平3		平10			平1	
27	新南陽	63						平5	
28	南陽工業		平1				62		
29	佐波			63		平7			
30	防府								
31	防府西						平10		平1
32	防府商業		定63					平6	平1
33	山口		定62				平2		
34	山口中央	63			平10				
35	西京	62					平4	平7	
36	山口農業						平5	平3	
37	宇部	63							
38	宇部中央		定平1				平10	63	
39	宇部西							平10	
40	宇部商業			63			62平6	平3	
41	宇部工業			平2			平8		
42	小野田		定63						
43	小野田工業		定63					平4	
44	厚狭			平1				平9	
45	美祢	62			平9		平4	平2	
46	大嶺		平4					63	
47	美祢工業						63	平10	

ピアノ……弘中　孝
マリンバ……水野与旨久
フルート……西田直孝トリオ
トランペット…田宮堅二

胡弓……姜建華・楊宝元
尺八と箏……中村明一、八木美知依
オペレッタ…木月京子
交響楽団……山口県交響楽団

演劇……のんた・宇部芸術座・海峡座
金管合奏……東京金管五重奏団
(注)＜62～平10……実施年度＞
＜※印……平成11年度実施予定＞

山口県高等学校文化連盟自主事業実施校一覧

番号	学校＼事業	ピアノ	マリンバ	フルート	胡　弓 トランペット	尺八と箏 オペレッタ	交響楽団	演　劇	金管合奏
48	田　　部						平１		
49	西　　市						63		
50	豊　　浦								
51	長　　府								平1
52	下　関　西								
53	下　関　南								
54	下関第一							平５	
55	下関中央工業							平６	
56	下関工業	62						平２	
57	響		平５				平１		
58	豊　　北	62					平３		
59	日置農業	63	平５			平９		平２	
60	大　　津	63						平５	
61	水　　産								
62	萩	63					平３	平６	
63	萩　商　業	63					平７	平２	
64	萩　工　業						平６	平４平９	
65	徳　　佐			分　63			63平10		
66	奈　　古				※		平１平９		
67	盲	63	平３		平10	平８	平７	平１	
68	聾								
69	岩国養護		平３					平10	
70	田布施養護		平６				62		
71	徳山養護		※	平１					
72	防府養護	62	平３	63					
73	宇部養護		63平５				平９	平１	
74	下関養護		平２平６						
75	豊浦養護		※						
76	萩　養　護		平６						
77	下関商業								
78	高　　水							62	
79	柳井学園		平６					63	
80	聖　　光						平２		
81	山口県桜ヶ丘								
82	三田尻女子							平７平９	
83	多々良学園								
84	中村女子	63					平２平５	※	
85	野田学園	63							
86	山口県鴻城						平９		
87	宇部鴻城						平７	平９	
88	宇部女子								
89	美祢中央								
90	香　　川						平１平５	※	
91	サビエル								
92	早　　鞆								
93	下関女子短期大学付属	62　63	平４			平７		平８	
94	長　　門						平６		
95	萩光塩学園								

（注）＜62～平10……実施年度＞
＜※印……平成11年度実施予定＞

《自主事業》山口県交響楽団演奏会

安下庄高等学校
3年　森次　陽子

私達はオーケストラの生演奏を聴く機会があまりありません。楽団の皆さんの活動は私達の音楽の世界を広げてくれる素晴しいものでした。

「カルメン」や「運命」は日頃耳にすることがありますが、演奏を見ながら聴くのではまた違った感動を覚えました。演奏会の途中で楽器の紹介をしてもらったので、合奏では聞こえなかった一つ一つの楽器の音が聴けて興味がより高まりました。生徒の関心をもっと集めるために、これからの演奏会ではジャズやポップスも加えて演奏してほしいです。

生徒の中にはまだ音楽の楽しさに目覚めていない人もいると思います。私は吹奏楽をやり始めて、楽器を演奏することがとても楽しいことだとわかりました。このような感動をまだ知らない人にできるだけ多く知ってもらいたいと思います。お忙しいとは思いますが、これからもたくさんの感動的な活動を楽しみにしています。

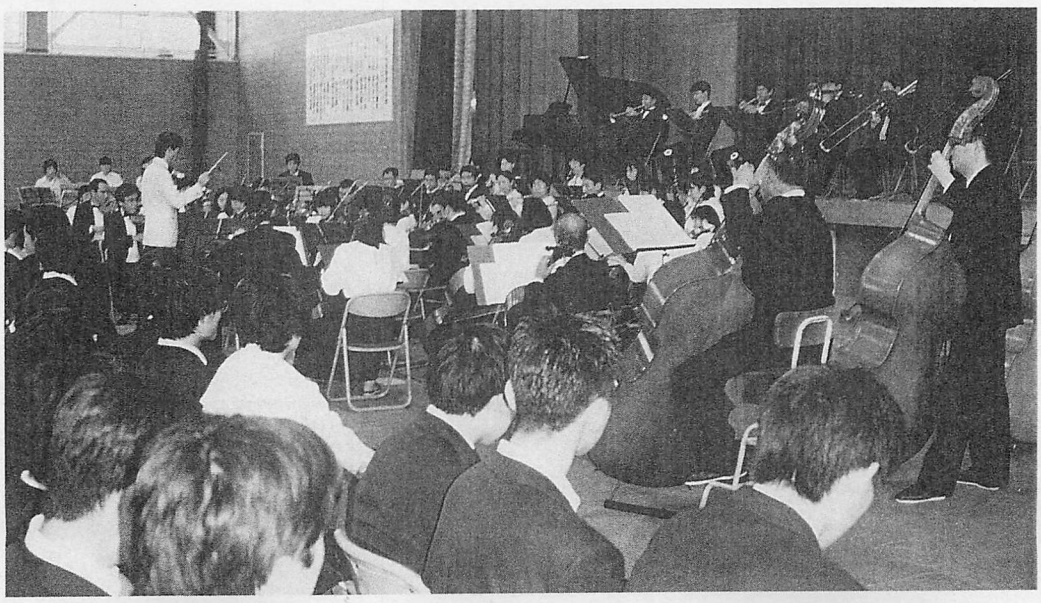
安下庄高等学校
3年　横元　美樹

私は、迫力のある生の演奏を聞き、コンサートの間ずっと頭から足の先まで鳥肌がたってしまいました。

コンサートのイベントで「指揮者に挑戦！」というのがあり、小学生、中学生、高校生が指揮をするのがとてもおもしろかったです。指揮者によって、こんなにテンポや感じが変わるとは思いませんでした。指揮者の仕事も大変重要なのだなあと思いました。でも、みんなの音を自由に操れることは、なんだかおもしろいなあ、私もやってみたいなあと思いました。

それと、上田先生と熊野先生の演奏が聞けて感激しました。熊野先生のソロは、思わず「カッコイイー」って言ってしまいました。

こういった生の演奏が聞け、私はとても楽しく過ごすことができました。どうもありがとうございました。



《自主事業》田宮堅二トランペットコンサート

鹿野高等学校
２年　　男子（感想文より抜粋）

トランペットとピアノでの演奏は、初めて聴くめったに体験できないものでとても感動した。トランペットの人はいろいろとトランペットのことを教えてくれて関心を持てた。特にホースとろうとを使って音を出したのには驚いた。ピアノの人もとてもきれいな音を出すし、「運命」を弾いたとき、その手の速さに唖然とした。トランペットとピアノが一緒になるとこんなにもすばらしい演奏になるとは思ってもみなかった。

この演奏会でクラシック音楽にますます興味が湧いたので感謝したい。

山口中央高等学校
１年　村田　美穂

私はトランペットの演奏を聞いて、すごくすごく感動しました。トランペットで高い音を出すのは難しいと聞いていたので、高い音がスラスラ出てくるのにびっくりいました。演奏される曲は、どれもほとんど高い音で、やはりプロはすごいなと思いました。出てくる音はどれもきれいで、時間がたつのがとてもはやく感じられました。ピアノとも息が合っていて、すごくステキでした。ピアノもとても上手で、リクエストされるとすぐ弾けるというのは本当にすごいなあと思いました。「魔王」も迫力があってすごかったです。生の「魔王」が聞けてうれしかったです。

ピアノの音がすごく優しかったです。きっと演奏している人の人柄が出ているんだろうなと思いました。お二人ともすごくすてきな方で、とても楽しい時間を過ごすことができました。

プロの方の演奏を聞くことは滅多にないので、すごくすごく嬉しかったです。またぜひ聞きたいと思いました。

やっぱり楽器を演奏できるということはすばらしいことです。私も早く、人前で堂々と、楽器を演奏してみたいと思いました。

山口中央高等学校
１年　野村　優子

不思議な音。そしてなんだか心が踊るような音。トランペットの音色を言葉で表現するなら、この２つ以外にないと思う。

地球上にはさまざまな楽器があり、それぞれ固有の音がある。華やかで優美な音、静かで心に響く音、リズミカルで軽快な音。そんな多くの「音」の中で、トランペットのあの不思議な音色にはユーモアがあふれている。乾いた弾んだ音。明るく歯切れのいい音。元気を象徴するような楽器だと思う。

今回のコンサートでは、明るい音色のトランペットと優雅な楽器の部類に属するピアノとのデュエットで、正反対に等しい２つの楽器の音色が美しく調和していた。トランペットの独奏も、ピアノの独奏も共に素晴しかったが、重奏の２つの音が混じった音楽も心に響くものがあった。

“音色は楽器が出すものではない。演奏者が出すものだ。”とどこかで聞いた。なるほど、どちらの奏者も楽器を演奏する時、楽しそうに活き活きと演奏していた。それが楽器の美しい音に拍車をかけ、さらに美しく響くのだろう。

私も現在、管弦楽部に所属し音楽に直接携わっている。バイオリンを常に楽しく演奏したいと思う。そして、あの美しい音色に拍車をかけ、私にしか出せない音色を造り上げたいと思う。

《自主事業》～二胡と中国琵琶～

徳山高等学校
定時制２年　脇本　周平

楊さんと姜さんが小さなステージに拍手とともに現われた。何故だろうか、僕の心臓は大きな音をたてている。これから始まるであろう二人のステージに対してではない。二人の人間性の大きさに対してだろうか、なにかオーラのようなものを感じたのだ。手には、見た事のない楽器を持っていた。その楽器からどんな音が出てくるのか、早く聞きたい一心だ。

楊さんのご挨拶がすみ、やっとその楽器の声が聞ける時がきた。演奏の始まりだ。さっきまで笑顔で話していた楊さんの目が、楽器をかまえるとともに、鋭く光りのある目へと変わった。ますます僕の鼓動は高く響く。自分が演奏するわけでもないのに、体にちからが湧いてきた。と、その時だ、「ヴァ～ン、ヴォーン」とでも表現すればいいのか、姜さんの楽器が叫びだした。すぐその後につづき、「ボロン、ボンボロン、ジャン」と、楊さんの楽器も楽しそうに歌いだす。二つの楽器の音色が、教室の空気を突き抜け、僕達の耳へ、心へと、音と感動をあたえだした。楽器を弾いているのではない、楽器で歌っている。そして叫んでいる。そう見えてくるのは何故だろう。

音楽のすばらしさと、不思議な感動、楊さんと姜さんからのこの二つのプレゼントは、決して忘れることがないだろう。

德山高等学校
定時制２年　関　　剛

桥梁的演奏会

来到日本的2年间，兴奋、感动、愉快的日子很少很少，就连过元日也没有过这些感觉。时间一分一秒地流过，不知不觉我来到日本已快2年了。来日本之前，我也不知到日本要做些什么。是上大学还是工作，是永远住在日本，还是过几年回中国，这些谁都不知道的问题，直到那一刻，才让我从梦中醒来。

一九九八年六月二十七日，这个既平凡而又不平凡的日子，中国人来我们学校演出。下午5点55分我和全校的师生，怀着紧张激动的心情，地走进了演奏会场。会场里一片寂静，只有走步的声音，大家都各自来到自己的位直坐下，大约过了10分钟左右，学校老师说了一声演奏开始。虽着二位中国的演奏家一位男杨宝元，一位女姜健華。刚看见的第一眼，我就有一种温馨洋意的感觉，首先是二位演奏家的合奏，虽然前2首合奏，我从来没有听过，可能我们全校的师生谁都没听过，但看着老师、同学都耐心认真地听演奏，我的心理不由的发生了一种感动的心情。大约过了30分钟左右，姜健华女士用标准而简明的日本说话：“次に日本の桜と中国の花と中国と日本両方にもあるの花を演奏します”在这话里字间，不由自主地体见了日中的友好之情，最後演奏了一首中国蒙古的古典名曲，在这首古典名典里，体表了骏马的明叫，在这叫声里，唤起了日本、中国而且整个世界的腾奔。在不是一个平凡普通的演奏会，而是钩通世界、架起中日之间友好的桥梁演奏会。

《自主事業》 巡回演劇公演

『にんじん』を鑑賞して

美祢工業高等学校　２年　濱田　一宏

私は、この10月13日にあった下関の海峡座のみなさんによる演劇『にんじん』を鑑賞し、たった１時間15分という短い時間の中でもいろいろ勉強になった部分がありました。

まず、私がこの劇を鑑賞して最初に思ったことは、海峡座のみなさんは素人の私が言うのも変ですが、生の劇を近くで見て本当に演技がうまいなあと思いました。何故かというと、私たちは１年生の時に＜美工祭＞へ向けて映画作りをしました。その時シナリオ作りから演出、撮影、完成後の上映とすべてを経験しました。この経験を通して海峡座のみなさんの演技に触れた時、やっぱりすごいなあと思いました。

二つ目は、私はかなり後ろの席にすわって見

ていましたが、声がしっかり聞こえました。このことを思った理由は、美祢工業の生徒は式典などで「校歌斉唱」の時に全然声が聞こえないから、この海峡座のみなさんのように大きな声で歌えるようになりたいと思ったものです。

三つ目は、この劇の主題から外れるかも知れませんが、私が思ったことは、人は人に知られていない部分がたくさんあって、ちょっとしたきっかけからその知られていない部分が少なくなって、友情や愛情がさらに深まっていくということが勉強になりました。

この劇の中で私が一番印象に残ったシーンは、にんじんが狩りに行くのを急にやめて、その理由を知ったお父さんが、そのことでお母さんを怒鳴ったシーンです。いろいろの思いが含まれた言葉や表情が表現されたと思います。

これからは、今日勉強したいろいろなことを今後の生活に生かしていきたいと思います。それから最後になりましたが、今回の公演は市民館で見て以来二度目でしたが、とても楽しめました。これからもいろいろなところでの活躍を期待しています。有意義なひとときをありがとうございました。

舞台芸術ふれあい教室（文化庁主催）

ミュージッカル公演／演劇集団・風

▲10月13日　県立華陵高等学校で実施

第13回全国高等学校文芸コンクール都道府県別応募状況一覧

	県名	学校数	小説	県応募	評論・研究	県応募	詩	県応募	短歌	県応募	俳句	県応募	文芸部誌	県応募	応募点数	県応募
1	北海道	4	5	5			5	64					1	1	11	70
2	青森	28	22	22			56	204	76	1,289	109	1,587	1	1	264	3,103
3	岩手	39	12	111			11	500	198	1,816	138	7,094	3	3	362	9,524
4	宮城	5	3	3			4	4			3	3	2	2	12	12
5	秋田	18	4	27			22	99	54	90	60	105	5	5	145	326
6	山形														0	0
7	福島	6	8	8			10	10	9	9	3	3	2	2	32	32
8	茨城	8	3	3			5	5	3	3			4	4	15	15
9	栃木	1					3	9							3	9
10	群馬	8	4	8			7	7	6	6	9	9	3	3	29	33
11	埼玉	8	20	23	1	1	26	111	4	13			3	3	54	151
12	千葉	6					9	9	18	18	48	48			75	75
13	東京	26	20	43	3	7	49	130	18	162	67	271	2	2	159	615
14	神奈川	8	9	105			10	10			9	9	1	1	29	125
15	山梨	12	3	69	1	2	3	344	26	294	13	596			46	1,305
16	新潟	4	5	5			6	6	6	6	3	3	1	1	21	21
17	富山	5	8	8			4	4	87	360			1	1	100	373
18	石川	2	1	1			6	6	3	3					10	10
19	福井	2	1	1			6	6	3	3					10	10
20	長野	2	1	1					759	801			1	1	761	803
21	岐阜	6	6	6			39	39	38	38	31	31	2	2	116	116
22	静岡	12	9	9			18	29	18	177	12	14	2	2	59	231
23	愛知	8	8	9			10	10	4	4					22	23
24	三重														0	0
25	滋賀	1	3	3			3	3							6	6
26	京都	2	1	1					3	3					4	4
27	大阪	10	2	2	1	1	8	8	3	3			2	2	16	16
28	兵庫	3	2	2	1	1							2	2	5	5
29	奈良	7	3	3			7	7	72	72	6	6	2	2	90	90
30	和歌山	7	5	5			21	21	15	15	13	13			54	54
31	鳥取	3	2	2			10	128					1	1	13	131
32	島根	4	4	4			12	12							16	16
33	岡山	5	3	3	1	1	22	45							26	49
34	広島	5	4	4			2	2	13	13	47	47	3	3	69	69
35	山口	5	16	16			7	7	40	40			2	2	65	65
36	徳島	6	4	20			30	132	15	132	9	84	1	1	59	369
37	香川	2	3	3			6	6			27	27	1	1	37	37
38	愛媛	1					4	4	3	3			1	1	8	8
39	高知														0	0
40	福岡	3	5	31	1	10	7	7					1	1	14	49
41	佐賀														0	0
42	長崎	4	7	178			3	3					1	1	11	182
43	熊本														0	0
44	大分	8	2	17			7	54	29	101	26	150			64	322
45	宮崎														0	0
46	鹿児島	1							6	6	3	3			9	9
47	沖縄	8	2	2	1	1	15	15	16	279	211	675	1	1	246	973
受付点数		302	220	763	10	24	473	2,060	1,545	5,759	847	10,778	52	52	3,147	19,436
応募数総計			763		24		2,060		5,759		10,778		52		19,436	

第13回全国高等学校文芸コンクール
部門別応募状況一覧

区分	応募点数	応募者数	学年別			男女別		応募総数（選抜前）
	点	人	1	2	3	男	女	
小説	220 162	205 149	54 37	89 67	62 45	50 39	155 110	763 433
文芸評論 文芸研究	10 13	10 13	1 1	3 8	6 4	6 3	4 10	24 237
詩	473 459	304 315	69 71	107 122	128 122	61 86	243 229	2,060 2,025
短歌	1,545 1,401	532 548	81 294	315 129	136 125	157 164	375 384	5,759 8,522
俳句	847 927	362 412	132 99	114 158	116 155	120 126	242 286	10,778 14,575
文芸部誌	52 54	52 54						52 54
合計	3,147 3,016	1,465 1,491	337 502	628 484	448 451	394 418	1,019 1,019	19,436 25,846

※数字は事務局受付分、下段小文字は昨年度

	年度	都道府県	応募校	応募点数	応募者数	応募総数
第1回	S61	17	110	890	630	
第2回	S62	30	202	1,977	1,297	
第3回	S63	35	210	1,830	1,235	
第4回	H1	39	235	1,990	1,347	
第5回	H2	41	240	2,112	1,286	
第6回	H3	41	269	2,533	1,595	15,842
第7回	H4	42	282	2,798	1,531	16,370
第8回	H5	41	290	1,919	1,173	17,512
第9回	H6	37	271	2,834	1,643	19,143
第10回	H7	43	293	5,225	2,638	21,214
第11回	H8	40	278	2,726	1,447	26,898
第12回	H9	40	294	3,016	1,491	25,846
第13回	H10	41	303	3,147	1,465	19,436

※応募総数は、各都道府県段階における応募数

第13回全国高等学校文芸コンクール
部門別応募状況一覧

区　分	応募点数	応募者数	文部大臣奨励賞	読売新聞社賞	最優秀賞	優秀賞	優良賞	奨励賞入選	合　計
小　説	220 162	205 149	☆	☆	1 1	4 4	5 6	7 6	17 17
文芸評論 文芸研究	10 13	10 13				1		3	0 4
詩	473 459	304 315	☆	☆	1 1	5 4	10 8	7 10	23 23
短　歌	1,545 1,401	532 548			1 1	6 5	11 13	13 13	31 32
俳　句	847 927	362 412			1 1	6 5	11 10	14 14	32 30
文芸部誌	52 54	52 54	☆		1 1	3 2	4 3	4 5	12 11
合　計	3,147 3,016	1,465 1,491			5 5	24 21	41 40	45 51	115 117

※数字は事務局受付分、下段小文字は昨年度

第13回全国高等学校文芸コンクール
受賞作品（山口県）

小説部門	優　良	県立防府高等学校　　2年　　古谷　ゆかり	『あじさい』
	入　選	県立山口高等学校　　2年　　村田　佳奈美	『ノスタルジア』

平成10年度 山口県高等学校文化連盟事業報告

月	日	事	業	会　　場
4	13		会計監査	山口中央高校
	21		第１回高文連企画運営委員会	山口中央高校
5	26		全国高等学校文化連盟評議委員会	東京都フロラシオン青山
	31	県高校総合文化祭（将棋）		中国新聞山口支社
6	6	巡回演劇「のんた」		岩国養護学校
	13	県高校総合文化祭総合開会式		サンビームやない
	14～15	県高校総合文化祭（器楽・管弦楽、合唱、吹奏楽 マーチングバンド・バトントワリング）		サンビームやない
	15	県高校総合文化祭（日本音楽、吟詠剣詩舞）		山口南総合センター
	24	田宮堅二トランペットコンサート		鹿野高校
	27	姜建華・楊宝元ジョイントコンサート		山口中央高校
	29	山口県交響楽団演奏会		徳山高校（定時制）
	30	姜建華・楊宝元ジョイントコンサート		安下庄高校
				盲学校
7	9		中国地区高文連関係者合同会議	広島県
	29	平成９年度「高文連」発行		
8	7～11	全国高校総合文化祭	全国高等学校文化連盟拡大理事会	鳥取県
	8		全国高等学校文化連盟各専門部会	鳥取県
	7～11			鳥取県
	29～30	第９回全国高等学校総合文化祭優秀校東京公演		東京都　国立劇場
9	25	巡回演劇「のんた」		久賀高校
	25	巡回演劇「宇部芸術座」		宇部西高校
10	9	巡回演劇「宇部芸術座」		宇部鴻城高校
	3	山口県交響楽団演奏会		鹿野高校
	4～5	県高校総合文化祭（演劇）		山口南総合センター
	13	舞台芸術ふれあい教室（ミュージカル）		華陵高校
	13	巡回演劇「海峡座」		美祢工業高校
	26	県高校総合文化祭（囲碁）		防府高校
	30	山口県交響楽団演奏会		宇部中央高校
11	1	巡回演劇「宇部芸術座」	第１回高文連理事長会	萩工業高校
	5	山口県交響楽団演奏会		県鴻城高校
	9			山口中央高校
	9	県高校総合文化祭（放送）		ニューメディアプラザ山口
	7～9	県高校総合文化祭（美術・工芸、書道、写真）		萩市民館・サンライフ萩
	10	山口県交響楽団演奏会		徳佐高校
12	19	平成10年度「高文連会報」発行		
1	28～29		全国高等学校文化連盟研究大会	福島県（郡山市）
2	4		全国高等学校文化連盟理事会	東京都フロラシオン青山
	10		第２回高文連理事長会	山口中央高校
	19		第２回高文連企画運営委員会	山口中央高校
3	25	第17回器楽管弦楽スプリングコンサート		防府市

【その他】　県高校総合文化祭準備（実行）委員会

総合開会式・音楽関係４部門（柳井高校）
展示関係３部門（萩光塩学院高校）
日本音楽、吟詠剣詩舞部門（県鴻城高校）
演劇部（山口中央高校）
囲碁部（防府高校）
放送部（山口農業高校）
将棋部（防府商業高校）
……主管校において開催

各専門部会 ……部会長校を中心に開催
各専門部研修会 ……県下各地において開催

山口県高等学校文化連盟　【共催】　第２回やまぐち県民文化祭・第37回山口県吹奏楽コンクール
第２回やまぐち県民文化祭・第53回山口県合唱コンクール山口県大会
第22回アンサンブルコンテスト山口県大会
【後援】　第４回山口県盲・聾・養護学校文化祭美術作品展示会
第11回全日本マーチングフェスティバル山口県大会

平成10年度 山口県高等学校文化連盟 会計決算書

〔収入の部〕

（単価：円）

区　分	予　算　額	決　算　額	増減（△減）	摘　要
繰　越　金	2,252,305	2,252,305	0	
会　費	18,220,000	17,918,650	△ 301,350	全日制 350円 定時制・盲・聾・養 50円
学校負担金	141,900	138,900	△ 3,000	30学級減
補　助　金	6,562,000 (内訳) 2,200,000 4,362,000	6,562,500 (内訳) 2,200,000 4,362,500	500 (内訳) 0 500	県総文祭県委託金 全総文祭県補助金
調整基金	0	0	0	
雑　収　入	19,795	22,549	2,754	利　息
合　計	27,196,000	26,894,904	△ 301,096	

〔支出の部〕

区　分	予　算　額	決　算　額	増　減（△減）	摘　要
〔運営費〕	1,315,000	1,187,716	△ 127,284	
事務用品費	(内訳) 255,000	(内訳) 177,237	(内訳) △ 77,763	事務用品、写真、事務機器維持費等
通信費	388,000	339,229	△ 48,771	電話　郵便　運送料等
分担金	10,000	10,000	0	中国高文連分担金
	247,000	247,000	0	全国高文連分担金
	415,000	414,100	△ 750	全国高文連社団法人化に伴う山口県割り当て
〔会議費〕	1,847,000	1,375,041	△ 471,959	
	(内訳) 440,000	(内訳) 287,811	(内訳) △152,189	県内会議（企画運営委員会　専門部理事長会）
	616,000	522,360	△ 93,640	全国会議（理事長会　研究大会　部会長等会議）
	782,000	559,830	△222,170	事務局旅費（会長、事務局員の県内・県外会議等）
	9,000	5,040	△ 3,960	監査旅費
〔事業費〕	19,319,000	18,529,238	△ 789,672	
県総文祭	(内訳) 7,734,000	(内訳) 7,734,000	(内訳) 0	総合開会式　各部門大会開催費
全総文祭	6,120,000	5,633,573	△ 486,427	生徒旅費・引率教員旅費532万 運送費31万
自主事業	2,440,000	2,439,200	△ 800	12公演
大会補助金	50,000	50,000	0	高文連(特殊教育)
専門部会費	1,685,000	1,445,000	△ 240,000	研修費　通信費
印刷費	1,290,000	1,227,555	△ 62,445	高文連集録 高文連会報 県総文祭ポスター
調整基金	3,000,000	3,000,000	0	
〔予備費〕	1,715,000	330,936	△ 1,384,064	県総文祭総合開会式予備　全国高総文祭新聞 部門派遣費　高演協(中国地区大会)　FAX修理
合　計	27,196,000	24,423,021	△ 2,772,979	

（収入）26,894,904円　－（支出）24,423,021円＝（繰越）2,471,883円

平成10年度 調整基金会計決算書

（単価：円）

前年度末現在高	今年度調整基金への繰入	今年度末残高
7,500,000	3,000,000	10,500,000

上記の通り相違ありません。

平成11年４月14日

監事 中林祥典

監事 野村稔

（※集録「高文連」９号記載の予算書・収入の部の数字に原稿ミスがあり、この決算書には正しいものを載せました。お詫びして訂正します。（事務局））

平成11年度 山口県高等学校文化連盟事業計画

月	日	事業		会場
4	14		会計監査	山口中央高校
	21		第1回高文連企画運営委員会	山口中央高校
5	7		高文連評議委員会	防府市
	17	水野与旨久マリンバコンサート		徳山養護学校
	20	水野与旨久マリンバコンサート		豊浦養護学校
	25		全国高等学校文化連盟評議委員会	東京都フロラシオン青山
	21	巡回演劇「宇部芸術座」		中村女子高校
	30	県高校総合文化祭（将棋）		中国新聞山口支社
6	18	県高校総合文化祭総合開会式		スターピアくだまつ
	19～20	県高校総合文化祭（器楽・管弦楽、合唱、吹奏楽 マーチングバンド・バトントワリング）		スターピアくだまつ
	20	県高校総合文化祭（日本音楽、吟詠剣詩舞）		美祢市民会館
	25	巡回演劇「宇部芸術座」		香川高校
	14	姜建華・楊宝元ジョイントコンサート		坂上高校
	17	姜建華・楊宝元ジョイントコンサート		奈古高校
	25		中国地区高文連関係者合同会議	山口市
	（下旬）	平成10年度「高文連」発行		
7	31		全国高等学校文化連盟拡大理事会	山形県
	30～	全国高校総合文化祭		山形県
8	～3		全国高等学校文化連盟各専門部会	山形県
	28～29	第10回全国高等学校総合文化祭優秀校東京公演		東京都 国立劇場
9	20	舞台芸術ふれあい教室（オーケストラ）		長府高校
10	6	山口県交響楽団演奏会		岩陽高校
	6			柳井商業高校
	23～24	県高校総合文化祭（演劇）		シンフォニア岩国
	24	県高校総合文化祭（囲碁）		下関工業高校
	26	巡回演劇「のんた」		柳井工業高校
11	（上旬）		第1回高文連理事長会	山口中央高校
	7	県高校総合文化祭（放送）		ニューメディアプラザ山口
	9	山口県交響楽団演奏会		徳山北高校
	9	山口県交響楽団演奏会		光丘高校
	12～14	県高校総合文化祭（美術・工芸、書道、写真）		ときわ湖水ホール
	19	巡回演劇「のんた」		柳井高校
12	（中旬）	平成11年度「高文連会報」発行		
1	20～21		全国高等学校文化連盟研究大会	滋賀県
2	5		全国高等学校文化連盟理事会	東京都フロラシオン青山
	（上旬）		第2回高文連理事長会	山口中央高校
	（下旬）		第2回高文連企画運営委員会	山口中央高校
3	（下旬）	第18回器楽管弦楽スプリングコンサート		柳井市

【その他】 県高校総合文化祭準備（実行）委員会

総合開会式・音楽関係4部門（華陵高校）
展示関係3部門（宇部西高校）
日本音楽、吟詠剣詩舞部門（大嶺高校）
演劇部門（岩陽高校）
囲碁部門（下関工業高校）
放送部門（山口農業高校）
将棋部門（防府商業高校）
…… 主管校において開催予定

各専門部会 …… 部会長校を中心に開催予定

各専門部研修会 …… 県下各地において開催予定

平成11年度.山口県高等学校文化連盟会計予算書

〔収入の部〕　　(単価：円)

区　分	予　算　額	前年度予算額	増減(△減)	摘　要
繰　越　金	2,471,883	2,252,305	219,578	
会　費	17,865,000	18,220,000	△ 355,000	全日制　350円×50,900人 定時制・盲・聾・養　50円× 1,000人
学校負担金	139,300	141,900	△ 2,600	26学級減
補　助　金	7,633,000 1,790,000 5,843,000	6,562,000 (内訳) 2,200,000 4,362,000	1,071,000 (内訳) △ 410,000 1,481,000	 県総文祭県補助金 全総文祭県補助金
調整基金から繰入	1,500,000	0	1,500,000	
雑　収　入	19,817	19,795	△ 22	利　息
合　計	29,629,000	27,196,000	2,433,000	

〔支出の部〕

区　分	予　算　額	前年度予算額	増減(△減)	摘　要
〔運営費〕	900,000	1,315,000	△ 415,000	
事務用品費	(内訳) 255,000	(内訳) 255,000	(内訳) 0	事務用品、写真、事務機器維持費等
通信費	388,000	388,000	0	電話　郵便　運送料等
分担金	10,000	10,000	0	中国高文連分担金
	247,000	247,000	0	全国高文連分担金
	0	415,000	△ 415,000	全国高文連社団法人化に伴う山口県割り当て
〔会議費〕	2,618,000	1,847,000	771,000	
	(内訳) 450,000	(内訳) 440,000	(内訳) 10,000	県内会議（企画運営委員会　専門部理事長会）
	1,124,000	616,000	508,000	全国会議（理事長会　研究大会　部会長等会議）
	1,035,000	782,000	253,000	事務局旅費（会長、事務局員の県内・県外会議等）
	9,000	9,000	0	監査旅費
〔事業費〕	25,046,000	19,319,000	5,727,000	
県総文祭	(内訳) 8,056,000	(内訳) 7,734,000	(内訳) 322,000	総合開会式　各部門大会開催費
全総文祭	11,191,000	6,120,000	5,071,000	生徒旅費771万・引率教員旅費234万　運送費114万
自主事業	2,624,000	2,440,000	184,000	12公演
大会補助金	200,000	50,000	150,000	高文連(特殊教育)
専門部会費	1,685,000	1,685,000	0	研修費　通信費
印刷費	1,290,000	1,290,000	0	高文連集録　高文連会報　県総文祭ポスター　他
〔調整基金〕	0	3,000,000	△ 3,000,000	
〔予備費〕	1,065,000	1,715,000	△ 650,000	
合　計	29,629,000	27,196,000	2,433,000	

平成11年度 調整基金会計予算書

(単価：円)

前年度末現在高	今年度調整基金から繰出し	今年度末残高
10,500,000	1,500,000	9,000,000

山口県高等学校文化連盟規約

平成元年４月１日改正
平成２年４月１日改正
平成３年４月１日改正
平成４年４月１日改正
平成６年４月１日改正
平成８年４月１日改正
平成９年４月１日改正

第１章　総　則

（名称）
第１条　この連盟は、山口県高等学校文化連盟と称する。
（事務局）
第２条　本連盟の事務局を山口市宮島町６番１号山口中央高等学校に置く。
（目的）
第３条　この連盟は、高等学校における生徒の創造活動の向上充実を図り、文化活動の健全な発展と芸術文化の振興に資することを目的とする。
（事業）
第４条　この連盟は、前条の目的を達成するために、次に掲げる事業を行う。
（１）山口県内の高等学校による文化行事の開催に関する事業
（２）全国高等学校文化連盟が主催する行事への派遣に関する事業
（３）芸術文化に関する研修会、講習会、鑑賞会、講演会等の開催に関する事業
（４）高等学校等の文化活動に関する調査研究事業
（５）高等学校による文化活動の国際交流に関する事業
（６）その他前条の目的の達成に必要な事業
（組織）
第５条　この連盟は、山口県内の公立及び私立すべての高等学校並びに高等部を設置している盲学校、聾学校及び養護学校をもって組織する。
２　山口県内を七つの地域に分け、地域ごとに連合体を組織することができる。この場合において、地域の区分は、山口県高等学校校長会の区分と同じものとする。
第６条　この連盟に、次の専門部を置く。
２　演劇、器楽・管弦楽、合唱、吹奏楽、マーチングバンド・バトントワリング、日本音楽、吟詠剣詩舞、美術・工芸、書道、写真、囲碁、将棋、放送の各部門とする。

第２章　役　員

（役員）
第７条　この連盟に次の役員を置く。
（１）　会　長　１人
（２）　副会長　若干人
（３）　評議員　95人以上
（会長及び副会長を含む。）
（４）　支部長　７人
（５）　専門部会長　13人
（６）　専門部理事長　13人
（７）　監　事　２人
（役員の選出）
第８条　役員の選出は、次のとおりとする。
（１）会長及び副会長は、評議員の互選により選出する。
（２）評議員は、加盟校の校長をもって充てる。
（３）支部長・専門部会長・専門部理事長は、各地域及び専門部の推薦に基づき、会長が委嘱する。

（4）監事は、評議員の推薦に基づき、会長が委嘱する。

2　役員の兼任は妨げない。

（役員の職務）

第９条　役員の職務は、次のとおりとする。

（1）会長は、この連盟を代表し、会務を統括する。

（2）副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき又は会長が欠けたときはその職務を行う。

（3）評議員は、評議員会に出席し、この連盟の事業について審議する。

（4）支部・専門部会長・専門部理事長は、企画運営委員会を構成し、この連盟の会務を審議し、執行する。

（5）監事は、会計を監査する。

（役員の任期）

第10条　役員は高等学校に在職する者とし、その任期は２年とする。ただし、再任を妨げない。

2　役員に欠員が生じたときは、必要に応じて補充する。ただし、任期は、前任者の残任期間とする。

第３章　会　　議

（会議）

第11条　この連盟の会議は、次に掲げるとおりとし、会長が必要に応じて、これを招集する。

（1）評議員会　　（2）企画運営委員会　　（3）理事長会

2　会議の議長は、会長がこれに当たる。

3　会議は、構成員の２分の１以上の出席がなければ、開会することができない。

4　会議の議事は、出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長がこれを決定する。

5　会議に出席できない構成員は、代理人に表決を委任することができる。この場合において、前２項の規定の適用については、会議に出席したものとみなす。

（評議員会）

第12条　評議員会は、次の事項を審議し、決定する。

（1）規約の制定及び改廃に関する事項　　（3）その他連盟の運営に係わる重要事項

（2）予算及び決算に関する事項

（企画運営委員会）

第13条　企画運営委員会は、次の事項を審議し、決定する。

（1）評議員から委任された事項　　（3）その他連盟の運営に係わる軽易な事項

（2）会務の運営及び執行に関する事項

2　企画運営委員会に事業の運営及び執行のために委員会を置くことができる。

3　委員会は、事業を主管する学校長を委員長とし、委員として当該事業担当の教職員若干人及び専門教職員をもってこれに充てる。

4　委員会の委員の任命及び委員会議の招集は、委員長が行うことができる。

（理事長会）

第14条　理事長会は、次の事項を審議し、決定する。

（1）企画運営委員会から委任された事項　　（2）その他各専門部の運営に係わる事項

第４章　会　　計

（経費）

第15条　この連盟の経費は、各高等学校等の分担金、県内の高等学校等の生徒の会費、補助金、寄付金及びその他の収入をもって充てる。

（予算及び決算）
第16条　この連盟の収支予算は、評議員会の決議により定め、収支決算は、会計年度終了後、監事の監査を経て次の評議員会でその承認を得なければならない。
（会計年度）
第17条　この連盟の会計年度は、毎年４月１日に始まり、翌年３月31日に終わる。
（会計経理）
第18条　この連盟の会計経理の手続きについては、企画運営委員会の議決を経て、別に定める。

第５章　事　務　局

（事務局）
第19条　この連盟の事務を処理するため、事務局を置く。
（運営）
第20条　事務局の運営に関しては、企画運営委員会の議決を経て、別に定める。

第６章　雑　　則

第21条　この連盟の規約の施行について必要な事項は、評議員会の議決を経て、別に定める。

附　　則

この規約は、昭和62年４月１日から施行する。

山口県高等学校文化連盟　諸規程

[会計規定]

昭和62年４月１日制定
平成４年４月１日改正
平成５年４月１日改正
平成８年４月11日改正

第１条　この規程は、山口県高等学校文化連盟規約に基づき、会計経理に関し必要な事項を定めるものとする。
第２条　すべての収入、支出は予算に計上しなければならない。
第３条　会長は、収支予算書及び事業計画書の案を作成し、これを評議員会に提出しなければならない。
第４条　会計経理は、収入科目、支出科目及び整理科目を設けて経理の整理をし、現金及び預金出納簿を備え、全ての経理内容を記入するものとする。
第５条　会長は、決算報告書について、監事の監査を受けた後、これを評議員会に提出しなければならない。
第６条　各高等学校は、毎年５月31日までに、会費を納入するものとする。
＜会費内訳＞　各高等学校生徒一人当たり１年に　（全日制生徒）　350円
（定時制、盲、聾、養護学校高等部生徒）　50円
各学校負担金（定時制、盲学校、聾学校、及び養護学校は除く）
学級数×100円
第７条　この規程の執行に関し必要な事項は、会長が定める。

附　　則

この規程は、昭和62年４月１日から実施する。

[事務局規定]

昭和62年４月１日制定
昭和62年７月14日改正

第１条　この規程は、山口県高等学校文化連盟規約に基づき、事務局の運営に関し必要事項を定めるものとする。
第２条　事務局に次の職員を置く。
（１）事務局長
（２）事務局員　ア　総務係
イ　庶務係
ウ　会計係
第３条　事務局長は、会長の命を受け、事務局の事務を統括する。
第４条　事務局員総務係は、事務局長の命を受け、総務・企画・文書・調査研究に関する事項を分掌する。
第５条　事務局員庶務係は、事務局長の命を受け、庶務に関する事項を分掌する。
第６条　事務局員会計係は、事務局長の命を受け、会計に関する事項を分掌する。
第７条　事務局の会計に関する規程その他事務処理上必要な諸規程は、別に定める。
第８条　その他事務局の細目的事項は、会長が別に定める。
第９条　会長が命令する出張等の旅費は、山口県旅費規程に準じて支給する。

附　　則
この規程は、昭和62年４月１日から実施する。

[表彰規定]

昭和62年４月１日制定
昭和62年７月14日改正
平成元年４月１日改正
平成２年４月１日改正
平成６年４月１日改正
平成８年４月１日改正

第１条　山口県高等学校文化連盟規約第４条６号に基づく表彰規程を次のように定める。

（表彰の種類）
第２条　本規程に基づく表彰は、次のとおりとする。
（１）文化功労賞
（２）その他、会長及び企画運営委員会が必要と認めたもの。

（文化功労賞）
第３条　本賞は、山口県高等学校文化連盟の生徒であって、当該年度の卒業予定者を対象として授与する。
第４条　受賞人員は在籍生徒数300名に対し１名の割合を原則とする。
第５条　本賞の受賞者の選考は、当該学校に一任する。
第６条　本賞の受賞者の選考基準は、次のとおりとする。
（１）人格、識見共に優秀と認める者。

（2）芸術文化活動歴が優秀である者、ただし、その活動は学校の内外を問わない。
第７条　各学校は、受賞者を決定し、別記様式（１）により、本連盟事務局あて報告するものとする。
第８条　本賞の授与は、卒業式に関する行事に際し、施行することを原則とする。

（その他、会長及び企画運営委員会が必要と認めたもの）

（優秀芸術文化賞）
第９条　本賞は、山口県文化連盟加盟校の生徒であって、13部門において、全国大会等で特に優秀な成績をおさめたと認められた個人並びに団体を対象とする。

（功績賞）
第10条　本賞は、山口県高等学校文化連盟加盟校の教職員であって、長年にわたり本連盟の発展に寄与した者を対象とする。

（優秀指導者賞）
第11条　本賞は、山口県高等学校文化連盟加盟校の教職員であって、13部門において、全国大会等で優秀賞を授与され、且つ、長年にわたり部の指導に当たってきた者を対象とする。
第12条　第9条、第10条、第11条の授賞については、高文連企画運営委員会に諮り、これを決定する。本賞の授与は県総文の総合開会式で行うことを原則とする。

附　　則
この規定は、昭和62年４月１日から実施する。

[旅費支給基準]

昭和62年４月１日制定
昭和63年４月25日改正
平成元年４月１日改正
平成11年４月１日改正

1　会長が招集する会議等の旅費は、山口県旅費規程に準じて支給する。

2　県総文の運営に関する旅費は、委託された主管校から山口県旅費規程に準じて支給する。ただし、その際の役員日当は1,700円とし、宿泊費は5,000円（内切り）とする。

3　全国高校総文祭に関する旅費は、
引率教員は、山口県旅費規程に準じて支給する。
生徒は、［交通費実費（学割・団体割引）＋宿泊費（大会規定料金）×２泊］×1/2とする。
※新幹線のみで100km以上の場合は特急指定料金を含む。（ただし県内は除く）
※在来線で100km以上の場合は急行または特急指定料金を含む。（ただし県内は除く）

4　専門部会長及び支部長が、県高等学校総合文化祭運営協議会（顧問会議、支部長会議等）を開催する場合は、出席者の在籍する各学校でこれを負担するようお願いする。

平成10年度 山口県高等学校文化連盟役員一覧

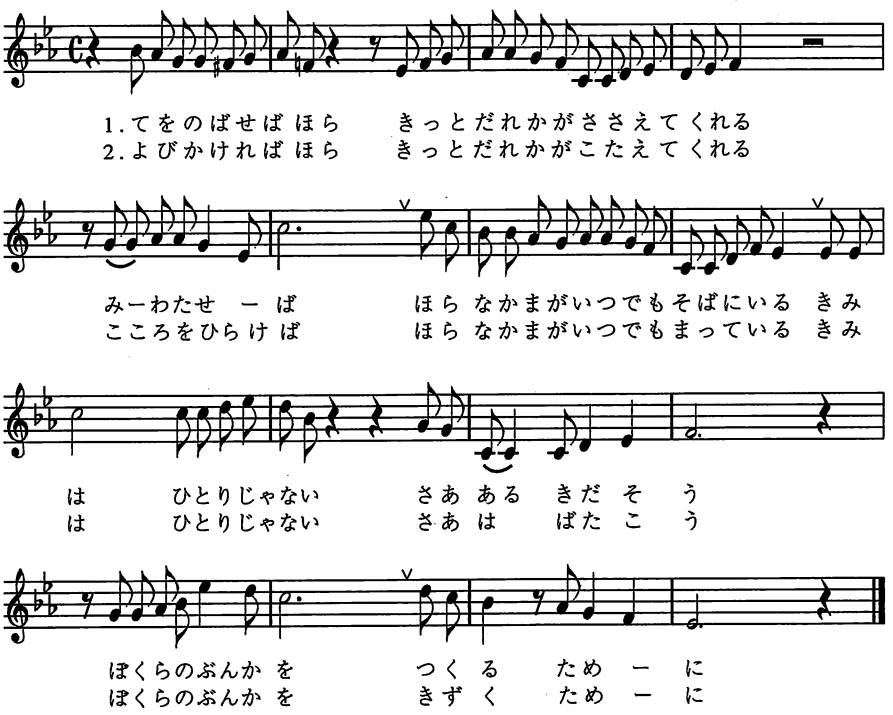
職名	氏名	支部・専門部	所属校
会長	森本紘史		山口中央高校
副会長	田中功		岩国高校
〃	小川達朗		下関西高校
〃	五十部益一		中村女子高校
支部長	田中功	岩国支部	岩国高校
〃	河野勝行	柳井支部	柳井高校
〃	桂雄三	徳山支部	徳山高校
〃	森本紘史	山防支部	山口中央高校
〃	木村良樹	宇部支部	宇部高校
〃	松井忠夫	下関支部	下関南高校
〃	浜田紀郎	長北支部	萩高校
専門部会長	松本真也	演劇部門	厚狭高校
〃	今橋靖刀	器楽・管弦楽部門	下関南高校
〃	藤本愼	合唱部門	野田学園高校
〃	流田正士	吹奏楽部門	華陵高校
〃	縄田研吾	マーチングバンド・バトントワリング部門	宇部女子高校
〃	桂雄三	日本音楽部門	徳山高校
〃	（休部）	吟詠剣詩舞部門	（休部）
〃	木村良樹	美術・工芸部門	宇部高校
〃	竹田信義	書道部門	山口高校
〃	桂雄三	写真部門	徳山高校
〃	芳西靖幸	囲碁部門	防府高校
〃	竹藤朔郎	放送部門	山口農業高校
〃	中村勇夫	将棋部門	防府商業高校
専門部理事長	三藤真人	演劇部門	厚狭高校
〃	松永忠雄	器楽・管弦楽部門	下関南高校
〃	石島栄子	合唱部門	野田学園高校
〃	和田道明	吹奏楽部門	華陵高校
〃	花村慈照	マーチングバンド・バトントワリング部門	宇部女子高校
〃	河村加南子	日本音楽部門	徳山高校
〃	（休部）	吟詠剣詩舞部門	（休部）
〃	庄島信基	美術・工芸部門	宇部高校
〃	古屋元子	書道部門	山口高校
〃	藤川明徳	写真部門	徳山高校
〃	井口秀是	囲碁部門	防府高校
〃	青木幸子	放送部門	山口農業高校
〃	弘中敏之	将棋部門	防府商業高校
監事	中村祥典		防府商業高校
〃	野村稔		宇部商業高校
事務局長	中邑立夫		山口中央高校
総務	角中悦太郎		山口中央高校
庶務・会計	大黒昌子		山口中央高校
	岩尾清子		山口中央高校

平成11年度 山口県高等学校文化連盟役員一覧

職名	氏名	支部・専門部	所属校
会長	西田 昇		山口中央高校
副会長	田中 功		岩国高校
〃	小川達朗		下関西高校
〃	五十部益一		中村女子高校
支部長	田中 功	岩国支部	岩国高校
〃	河野勝行	柳井支部	柳井高校
〃	浜田紀郎	徳山支部	徳山高校
〃	西田 昇	山防支部	山口中央高校
〃	星出文生	宇部支部	宇部高校
〃	今橋靖刀	下関支部	下関南高校
〃	川本紘三	長北支部	萩高校
専門部会長	池田武久	演劇部門	厚狭高校
〃	今橋靖刀	器楽・管弦楽部門	下関南高校
〃	川本紘三	合唱部門	萩高校
〃	流田正士	吹奏楽部門	華陵高校
〃	縄田研吾	マーチングバンド・バトントワリング部門	宇部女子高校
〃	芳西靖幸	日本音楽部門	防府高校
〃	（休部）	吟詠剣詩舞部門	（休部）
〃	池田通夫	美術・工芸部門	岩国工業高校
〃	福田徳郎	書道部門	山口高校
〃	黒瀬孝夫	写真部門	宇部工業高校
〃	渡邉清志	囲碁部門	下関工業高校
〃	竹藤朔郎	放送部門	山口農業高校
〃	中村祥典	将棋部門	防府商業高校
専門部理事長	三藤真人	演劇部門	厚狭高校
〃	松永忠雄	器楽・管弦楽部門	下関南高校
〃	有冨美子	合唱部門	萩高校
〃	和田道明	吹奏楽部門	華陵高校
〃	花村慈照	マーチングバンド・バトントワリング部門	宇部女子高校
〃	伊藤由紀子	日本音楽部門	防府高校
〃	（休部）	吟詠剣詩舞部門	（休部）
〃	平田博英	美術・工芸部門	岩国工業高校
〃	古屋元子	書道部門	山口高校
〃	大濱進治	写真部門	宇部工業高校
〃	安藤公隆	囲碁部門	下関工業高校
〃	青木幸子	放送部門	山口農業高校
〃	弘中敏之	将棋部門	防府商業高校
監事	中村祥典		防府商業高校
〃	野村 稔		宇部商業高校
事務局長	中邑立夫		山口中央高校
総務	角中悦太郎		山口中央高校
庶務・会計	大黒昌子（村岡悠子）		山口中央高校
〃	豊川眞利子		山口中央高校

全国高文連の歌

全国高等学校文化連盟制定
向　川　栄　美　作詞
乗　松　美　紀　作曲



全国高文連の歌

一、
手を伸ばせば　ほら
きっと誰かが支えてくれる
見渡せば　ほら
仲間がいつでもそばにいる
君は一人じゃない
さあ　歩きだそう
僕等の文化を創るために

二、
呼びかければ　ほら
きっと誰かが応えてくれる
心を開けば　ほら
仲間はいつでも待っている
君は一人じゃない
さあ　翔(はばた)こう
僕等の文化を築くために

山口県高等学校文化連盟

「高文連」編集委員

（各部門）

合唱	石島　栄子	（野田学園高等学校）
マーチングバンド バトントワリング	花村　慈照	（宇部女子高等学校）
器楽・管弦楽	松永　忠雄	（県立下関南高等学校）
吹奏楽	和田　道明	（県立華陵高等学校）
演劇	三藤　真人	（県立厚狭高等学校）
日本音楽	河村　加南子	（県立徳山高等学校）
美術・工芸	庄島　信基	（県立宇部高等学校）
書道	古屋　元子	（県立山口高等学校）
写真	藤川　明徳	（県立徳山高等学校）
囲碁	井口　秀是	（県立防府高等学校）
将棋	弘中　敏之	（県立防府商業高等学校）
放送	青木　幸子	（県立山口農業高等学校）

（事務局）

事務局長	中邑　立夫	（県立山口中央高等学校）
総務	角中　悦太郎	（　〃　）
庶務会計	岩尾　清子	（　〃　）

平成10年度

山口県高等学校文化連盟集録

「高文連」

編集・発行　山口県高等学校文化連盟事務局
〒753-0043　山口市宮島町６-１
山口県立山口中央高等学校内
電話・FAX　0839-32-0818